

山田正賢編纂

銀行會社法令大全

鶴鹿苑藏版

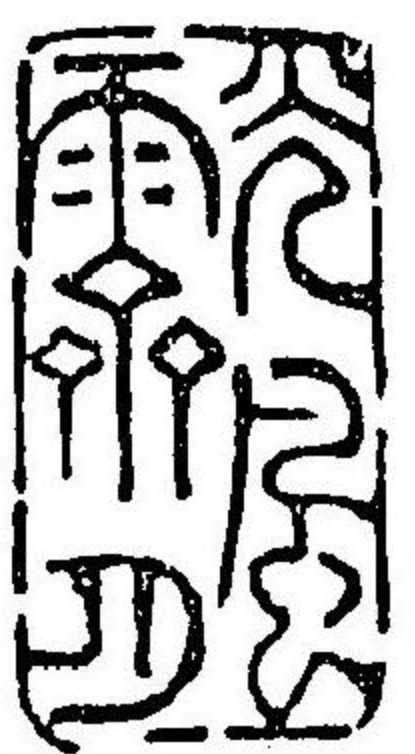


明治  
39 7 18  
内交



CZ  
5  
045

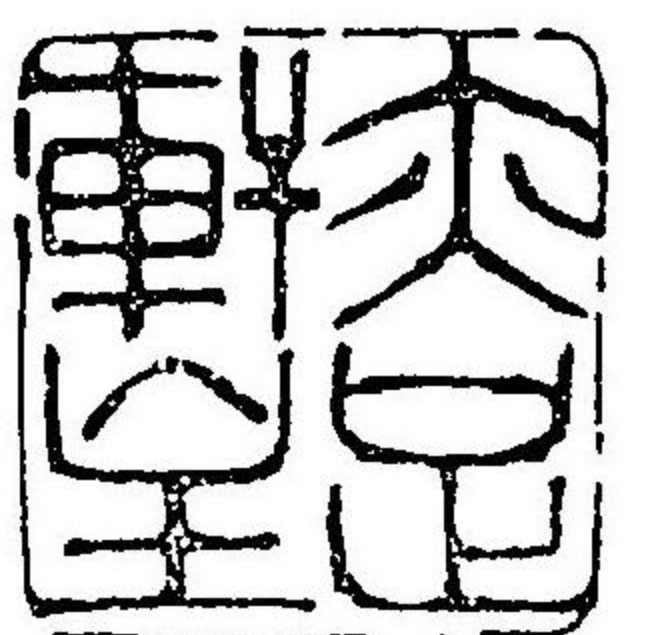
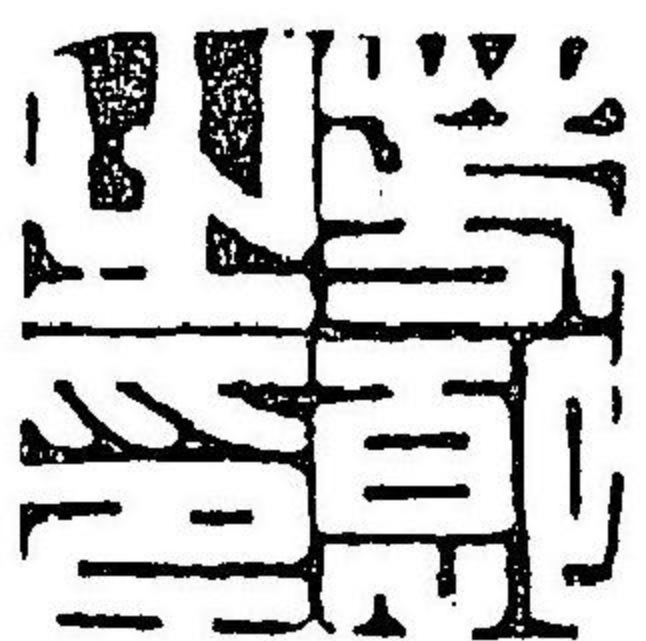




年一七

子天

天家六





## 例言

一本書ハ明治初年ヨリ同三十九年六月廿二日マテ發布セラレタル諸法令中銀行會社ノ執務上必要ナルモノノミヲ編纂シタルモノニシテ改版ノ二字ヲ冠シタルハ明治三十二年七月發行ノ銀行會社法令大全ト其目的及ヒ体裁ヲ同ウスルモ悉ク其版ヲ改メ一モ前書ノ原版ヲ使用セサルカ爲メナリ

一法令中改正削除ニ係ルモノハ直チニ其條項ニ就テ修正シタリ然レトモ煩ヲ避クカ爲メ該法令發布年月ノ下ニ改正ノ旨ヲ附記シタル外一々之ヲ明示セス

一本書ノ印刷中ニ發布セラレタル法令ハ之ヲ其關係部分ニ挿入シ或ハ其法令ニ基キテ修正加除シタルモ能ハサルモノハ之ヲ本書ノ末尾ニ追加シタリ

一法令民法商法等ハ前版銀行會社法令大全ニハ發布ノ當時ナリシヲ以







第二章 特種銀行法規

第一節 貯蓄銀行條例及施行細則

第一款 貯蓄銀行條例

第二款 貯蓄銀行條例施行細則

第三款 雜則

第一 貯蓄銀行供託金計算方并營業科目ニ關スル件

第二 貯蓄銀行供託金計算說明ニ關スル件

第一節 日本銀行

第一款 日本銀行條例

第二款 雜則

第一 日本銀行納稅ニ關スル件

第二 日本銀行課稅額算出ノ件

第二節 橫濱正金銀行條例

三十二頁

三十二頁

三十二頁

三十四頁

三十八頁

三十八頁

三十八頁

三十九頁

三十九頁

四十三頁

四十三頁

四十四頁

四十六頁

第四節 日本勸業銀行法

第五節 農工銀行法及補助法

第一款 農工銀行法

第二款 農工銀行補助法

第六節 日本興業銀行法

第七節 北海道拓殖銀行法

第八節 臺灣銀行法及補助法

第一款 臺灣銀行法

第二款 臺灣銀行補助法

第九節 第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ノ件

五十頁

六十三頁

六十三頁

七十四頁

七十六頁

八十三頁

九十頁

九十頁

九十七頁

九十七頁

第二編 會社

第二章 鐵道會社

目次

百二頁



第一節 私設鐵道法及施行規則

第一款 私設鐵道法

第二款 私設鐵道法施行規則

第二節 鐵道營業法

第三節 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社

第一款 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル法律

第二款 京釜鐵道株式會社ニ關スル勅令

第三款 京釜鐵道買收法

第四節 鐵道國有法

第二章 保險會社

第一節 保險業法及施行規則

第一款 保險業法

第二款 保險業法施行規則

四

百二頁

百二頁

百二十二頁

百四十三頁

百五十一頁

百五十一頁

百五十三頁

百五十五頁

百五十八頁

百六十四頁

百六十四頁

百六十四頁

百八十九頁

第二節 外國保險會社

第一 外國保險會社ニ關スル勅令

第二 外國保險會社ニ關スル省令

第三章 信託會社

第一節 擔保附社債信託法及施行期日

第二節 擔保附社債信託法施行細則

第四章 取引所

第一節 取引所法及施行規則

第一款 取引所法

第二款 取引所法施行規則

第二節 取引所稅法

第三節 雜則

目次

五

百九十五頁

百九十五頁

二百一頁

二百三頁

二百三頁

二百二十九頁

二百三十八頁

二百三十八頁

二百三十八頁

二百四十五頁

二百五十四頁

二百五十五頁



第一	米有價證券取引市場設立ニ關スル件	二百五十五頁
第二	取引所設立發起認可申請ニ關スル件	二百五十五頁
第三	取引所資本金營業保證株式手数料積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程并仲買人免許料金額ノ件	二百五十六頁
第四	國債證券ノ取引所稅廢止ニ關スル法律	二百六十頁

## 第二編 商業會議所

第一章	商業會議所法	二百六十一頁
第二章	商業會議所法施行規則	二百七十三頁
第三章	商業會議所議員選舉規則	二百七十九頁
第四章	商業會議所ノ議員選舉ニ關スル納稅額ノ件	二百八十九頁

## 第四編 貨幣及紙幣

第一章	貨幣	二百九十二頁
第一節	貨幣法	二百九十二頁
第二節	貨幣ノ形式	二百九十六頁
第二章	造幣	三百頁
第一節	造幣規則并造幣地金及成貨受渡取扱順序	三百頁
第一款	造幣規則	三百頁
第二款	造幣地金及成貨受渡取扱順序	三百二頁
第二節	金銀地金精製及品位證明取扱順序	三百三頁
第一款	金銀地金精製及品位證明規則	三百三頁
第二款	金銀地金精製及品位證明取扱順序	三百六頁
第三章	紙幣及銀行券	三百八頁



第一節 紙幣

- 第一 政府發行紙幣通用廢止
- 第二 國立銀行紙幣ノ通用及引換期限

第二節 銀行券

- 第一款 兌換銀行券條例
- 第二款 雜則
- 第一 兌換銀行券ノ内百圓券改造ノ件
- 第二 發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ニ關スル件
- 第三 臺灣銀行券ニ關スル件
- 第三節 鑄造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第五編 國債大藏省券及貯蓄債券

第一章 國債

第一節	新舊公債	三百十六頁
第二節	金祿公債	三百十八頁
第三節	祿高整理公債發行及端數現金請求ニ關スル手續	三百二十三頁
第四節	金札引換公債	三百二十四頁
第一款	金札引換公債證書發行條例	三百二十四頁
第二款	金札引換無記名公債證書條例	三百二十九頁
第五節	鐵道公債	三百二十九頁
第一款	中山道鐵道公債	三百二十九頁
第二款	鐵道費補充公債條例	三百三十三頁
第六節	整理公債	三百三十三頁
第七節	海軍公債	三百三十六頁
第八節	軍事公債	三百三十七頁



第二款 軍費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件  
第二款 軍事公債條例

三百三十七頁  
三百三十八頁

### 第九節 事業公債

三百三十九頁

第一款 事業公債條例

三百三十九頁

第二款 臺灣事業公債

三百三十九頁

第三款 雜則

三百四十頁

第一款 鐵道公債及事業公債利子支拂期改正ノ件

三百四十一頁

第二款 鐵道公債事業公債證書ノ様式及名稱變更ノ件

三百四十一頁

### 第十節 臨時公債及募集

三百四十一頁

第一款 國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法令

三百四十一頁

第一 國債ノ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル件

三百四十一頁

第二 英國倫敦ニ於テ募集ノ公債ニ關スル手續方法

三百四十二頁

第二款 臨時事件費支辨ニ關スル件及公債募集手續

三百四十三頁

第一 臨時事件費支辨ニ關スル件

三百四十三頁

第二 英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ募集スル公債ニ關スル件

スル件

三百四十四頁

第三款 臨時事件費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件

三百四十六頁

第一 公債募集ニ關スル件

三百四十六頁

第二 英國倫敦及北米合衆國ニ於テ募集スル公債ニ關スル件

件

三百四十六頁

第四款 臨時事件費支辨及公債募集ニ關スル件

三百四十八頁

第一 臨時事件費支辨ニ關スル件

三百四十八頁

第二 英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ募集スル公債ニ關スル件

スル件

三百四十九頁

第五款 臨時事件費支辨ノ爲公債募集ノ件

三百五十一頁

第一 臨時事件費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件

三百五十一頁

第二 英國倫敦北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ募集スル公債ニ關スル件

債ニ關スル件

三百五十一頁

第六款 國債整理ノ爲外國ニ於テスル公債募集ニ關スル件

三百五十二頁



第七款 臨時事件費支辨及公債規程

三百五十五頁

第一 臨時事件費支辨ニ關スル件

三百五十五頁

第二 臨時事件公債規程

三百五十六頁

第十一節 國庫債券

三百六十二頁

第一款 財政上必要處分ノ件

三百六十二頁

第二款 國庫債券發行規程

三百六十三頁

第三款 第二回國庫債券發行規程

三百六十六頁

第四款 第三回國庫債券發行規程

三百六十九頁

第五款 第四回國庫債券發行規程

三百七十三頁

第六款 第五回國庫債券發行規程

三百七十七頁

第十二節 國債證券買入消却法

三百八十一頁

第十三節 國債整理基金特別會計法

三百八十一頁

第十四節 國債規則

三百八十四頁

第十五節 國債證券ニ關スル雜則

四百十一頁

第一 國債ノ種別及國債證券ノ名稱ニ關スル件

四百十一頁

第二 國債證券價格計算ニ關スル件

四百十二頁

第三 擔保トシテ政府ニ納ムヘキ國債證券ノ價格算定ニ關スル件

四百十三頁

第四 歲入金ノ代用證券取扱ニ關スル件

四百十四頁

第五 元金及利子支拂期ノ開始セル無記名國債證券及利札ヲ

四百十四頁

歲入金ニ代納スルコトヲ得ル件

四百十四頁

第六 國債證券及利札ヲ代納シ得ル歲入金ノ種目指定

四百十八頁

第二章 大藏省證券

四百十九頁

第一節 大藏省證券條例

四百二十頁

第二節 證券發行ノ事務取扱方

四百二十一頁

第三節 國債規則中準用ノ件

四百二十二頁



第三章 貯蓄債券

四百二十二頁

第一節 貯蓄債券法

四百二十二頁

第二節 貯蓄債券購買媒介郵便規則

四百二十四頁

第六編 稅則

第一章 非常特別稅

四百二十六頁

第一節 非常特別稅法

四百二十六頁

第二節 非常特別稅法施行規則

四百五十四頁

第二章 登錄稅

四百六十二頁

第一節 登錄稅法

四百六十二頁

第二節 登錄稅法施行規則

四百八十一頁

第三節 臺灣土地登記稅

四百八十三頁

第一款 臺灣土地登記稅規則

四百八十三頁

第二款 臺灣土地登記稅規則施行規則

四百八十七頁

第三章 營業稅

四百八十九頁

第一節 營業稅法

四百八十九頁

第二節 營業稅法施行規則

五百一頁

第三節 業名及課稅標準屆樣式

五百七頁

第四章 所得稅法

五百十頁

第一節 所得稅法

五百十頁

第二節 所得稅法施行規則

五百二十二頁

第五章 印紙稅

五百二十九頁

第一節 印紙稅法

五百二十九頁



第二節 税印押捺ニ關スル件

五六

五百三十四頁

第一 證書ニ税印ノ押捺請求方

五百三十四頁

第二 税印押捺請求書ニ證書用紙ノ價格記載ノ件

五百三十四頁

第二節 收入印紙

五百三十五頁

第一 收入印紙ニ關スル件

五百三十五頁

第二 收入印紙形式

五百三十五頁

第三 收入印紙ヲ以テ手数料罰金料過料刑事追徴金訴訟費用及非訟事件費用ヲ納メシムルコトヲ得ルノ件

五百三十六頁

第四 收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目

五百三十七頁

第五 收入印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムル時印紙貼付方

五百三十八頁

第七編 通信

第一章 郵便

五百三十九頁

第一節 郵便法及郵便規則

五百三十九頁

第一款 郵便法

五百三十九頁

第二款 郵便規則

五百四十九頁

第三款 郵便法ニ關スル雜則

五百七十一頁

第一 郵便物包裝規則

五百七十一頁

第二 郵便切手葉書各種ノ印紙證券類取扱方

五百七十三頁

第三 第四種郵便物トシテ差出スコトヲ得ルモノ、件

五百七十三頁

第四 臺灣島内ニ於ケル郵便物別配達料ノ件

五百七十三頁

第五 貨幣封入及書留郵便物不着等ノ時取調請求方

五百七十四頁

第六 郵便私書函貸與規程

五百七十四頁

第七 私製葉書製式規則

五百七十六頁

第八 本邦約束郵便物ノ名宛人清國へ移轉シタルトキ完納料郵便物トシテ同國へ再發シ得ルノ件

五百七十八頁

第二節 小包郵便

五百七十九頁

目次

七七



第一款 清韓小包郵便規則 五百七十九頁  
第二款 宇品山海關間往復船内ニ設置セル郵便取扱所小包郵便料金ノ件 五百八十五頁

### 第二節 郵便爲替

第一款 郵便爲替法 五百八十六頁  
第二款 郵便爲替規則 五百八十九頁  
第三款 郵便爲替ニ關スル法規 六百五頁  
第一 郵便爲替證書線引讓渡規則 六百五頁  
第二 通常郵便爲替證書ノ金額ヲ規定ノ制限額以上ニ高ムル場合ノ件 六百六頁  
第三 清韓國ニ設置ノ郵便局所間又ハ同局所ト其以外ノ各局所トノ間ニ於ケル通常郵便爲替ノ最高制限金額ノ件 六百六頁  
第四 在清國本邦郵便局所ニ於テ振出ス郵便爲替ノ最高額

### 制限ノ件

第五 牛莊郵便局振出ノ通常爲替ノ金額ニ關スル件 六百七頁  
第六 海外出稼人委託ノ通常郵便爲替ノ最高金額ニ制限ヲ付セサルノ件 六百八頁  
第七 臺灣及清國韓國郵便電信爲替料ノ件 六百八頁  
第八 宇品山海關間往復船内ニ設置セル郵便取扱所爲替料金ノ件 六百九頁  
第九 各郵便受取所及在清國郵便局所ハ電信爲替ノ取扱ヲ爲サ、ル件 六百十頁

### 第四節 郵便貯金

第一款 郵便貯金法 六百十頁  
第二款 郵便貯金規則 六百十四頁  
第三款 郵便振替貯金規則 六百四十六頁  
第四款 郵便貯金ニ關スル雜則 六百五十四頁



第一 郵便貯金法施行期日	六百五十四頁
第二 郵便貯金法ヲ臺灣ニ施行スルノ件	六百五十五頁
第三 郵便貯金利子割合ノ件	六百五十五頁
第四 郵便貯金規則ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル 證券ノ種類	六百五十五頁
第五 郵便振替貯金ニ要スル拂込及拂出書用紙價格	六百五十七頁
第六 郵便振替貯金ノ拂込ニ私製拂込書用紙ヲ使用スルコ トヲ得ル件	六百五十七頁
<b>第五節 外國郵便</b>	
第一款 外國郵便規則	六百五十八頁
第二款 外國小包郵便規則	六百六十三頁
第三款 外國郵便爲替	六百七十二頁
第一 外國郵便爲替規則	六百七十二頁
第二 郵便爲替證書線引讓渡規則準用ノ件	六百八十三頁

## 第二章 電信

### 第一節 電信法及電報規則

第一款 電信法	六百八十四頁
第二款 電報規則	六百八十四頁
第三款 電信法ニ關スル雜則	六百九十三頁
第一 電信法第五條ノ電信及電話官署	七百三十二頁
第二 電信法ニ依ル損害賠償及報酬ノ請求ニ關スル件	七百三十二頁
第三 電信局所ノ電報取扱時間及其時間外電報取扱規則	七百三十五頁
第四 電話機ニ依リ電報ヲ發受スル心得	七百三十五頁
第五 電信電話ニテ海外電報發受ノ件	七百四十四頁
第六 略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手 續	七百四十四頁
第七 電信法ヲ無線電信ニ準用ノ件	七百四十六頁
第八 内地ト臺灣又ハ樺太及臺灣樺太間ノ私報ノ通常電報	



料

第二節 私設電信

第一款 私設電信規則

第二款 私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

第三款 私設電信規則第二十條ノ料金額及其ノ納付手續

第三節 韓國內及韓國ト本邦間ノ電報

第一款 韓國內電報規則

第二款 本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發着電報取扱規則

第三章 電話

第一節 電話規則

第二節 特設電話規則

七十四十六頁

七十四十六頁

七十四十七頁

七十五十五頁

七十五十七頁

七十五十八頁

七十五十九頁

七百六十頁

七百六十三頁

七百六十三頁

七百八十三頁

第二節 電話呼出規程

七百八十九頁

第八編 商事ニ關スル法規

第一章 非訟事件手續

七百九十三頁

第一節 非訟事件手續法

七百九十三頁

第二節 謄本抄本申請手數料

八百四十四頁

第二章 商事非訟事件印紙

八百四十四頁

第一節 商事非訟事件印紙法

八百四十四頁

第二節 商事非訟事件印紙規則

八百四十七頁

第三章 商業登記

八百四十八頁

第一節 商業登記取扱手續

八百四十八頁

目次

二十三



第二節 相互保險會社登記取扱手續

二百四

第四章 雜則

八百六十一頁

第一 商法中署名スヘキ場合ニ關スル件

八百六十五頁

第二 小商人ノ範圍ニ關スル件

八百六十五頁

第三 湖川港灣及海岸小航海ノ範圍ニ關スル件

八百六十五頁

第九編 民事ニ關スル法規

第一章 抵當法

八百六十七頁

第一節 鐵道抵當法及施行規則

八百六十七頁

第一款 鐵道抵當法

八百六十七頁

第二款 鐵道抵當法施行規則

八百九十一頁

第二節 工場抵當法

八百九十九頁

第二節 鑛業抵當法

九百十二頁

第二章 競賣法

九百十四頁

第三章 供託法

九百二十七頁

第一節 供託法

九百二十七頁

第二節 供託物取扱規程

九百三十頁

第三節 臺灣供託規則

九百三十六頁

第四章 登記法

九百三十六頁

第一節 不動產登記法及施行細則

九百三十六頁

第一款 不動產登記法

九百三十七頁

第二款 不動產登記法施行細則

九百七十八頁

第二節 登記簿ノ謄本抄本請求手数料

九百九十五頁

目次

二十五



第三節 整理地登記規則及取扱手續

九百九十六頁

第一款 整理地登記規則

九百九十七頁

第二款 整理地登記取扱手續

千三頁

第四節 臺灣土地登記規則及施行規則

千五頁

第一款 臺灣土地登記規則

千六頁

第二款 臺灣土地登記規則施行細則

千九頁

第五節 工場抵當登記取扱手續

千十一頁

第六節 礦業抵當登記取扱手續

千十六頁

第十編 刑事ニ關スル法規

第一章 紙幣類似證券取締法

千十九頁

第二章 通貨及證券模造取締法

千二十頁

第三章 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行

券偽造變造及模造ニ關スル法律

千二十頁

第四章 雜則

千二十三頁

第一 日本銀行ニ於テ發行スル兌換銀行券ノ偽造變造及其取受  
行使ニ關スル件

千二十三頁

第二 臺灣銀行ニ於テ發行スル銀行券ノ偽造變造等ニ關スル件

千二十四頁

第十一編 追加

第一 郵便貯金規則中改正ノ件

千二十五頁

第二 戰役ニ關シ下賜セラレタル公債證書ヲ郵便貯金規則ニ依  
リ保管ノ件

千二十五頁

第三 隨時公債證書發行ノ件

千二十六頁

第四 明治三十七年律令第八號廢止ノ件

千二十六頁

目次

二十七



第五 南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件  
第六 債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル件

二十八  
千二十七頁  
千三十頁

## 改版銀行會社法令大全目次終

# 改版銀行會社法令大全

山田正賢編

## 第一編 銀行

### 第一章 普通銀行法規

#### 第一節 銀行條例及施行細則

##### 第一款 銀行條例

銀行條例(明治二十三年法律第七十二號  
同三十三年一月法律第五號迄數次改正)

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預  
ツ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ヰルニ拘ハラヌ總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認  
可ヲ受クヘシ



銀行ノ事業ヲ營ム會社ニシテ合併セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ毎半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送附スヘシ

第四條 銀行ハ毎半箇年貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ノ登記スヘキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スルモノアルトキハ其認可書ノ到達シタル日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時迄トス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ其營業主、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第十一條 此條例ハ日本銀行、橫濱正金銀行、國立銀行ニ適用セス

第十二條 銀行條例施行細則

銀行條例施行細則(明治三十二年六月大藏省令第二十四號 同三十四年十二月同省令第二十六號第二次改正)

第一條 各人ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 商號

二 本店及支店ノ所在地

三 資本金額

第二條 會社ニシテ銀行ノ事業ヲ營マントスルモノハ合名會社若ハ合資會社ニ在テハ各社員

銀行會社法令大全 第一編 第一章 第一節 第二款 銀行條例施行細則 三



又ハ業務執行社員株式會社若ハ株式合資會社ニ在テハ取締役又ハ業務執行社員ノ署名シタル認可申請書ニ定款及ヒ株式申込書謄本ヲ添ヘ大藏大臣ニ差出スヘシ

第三條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ニ會社定款ヲ添ヘ支店ノ代表者ヨリ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 支店ノ商號

二 支店ノ所在地

三 支店資本金ヲ定メタルトキハ其金額

第四條 合資會社カ其組織ヲ變更シテ合名會社ト爲シタルトキハ財産目錄、貸借對照表及定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 株式合資會社カ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書、貸借對照表及ヒ定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第六條 商法施行前ニ設立シタル合資會社カ其組織ヲ變更シテ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲シタルトキハ組織變更ニ關スル決議書、貸借對照表及定款ヲ添ヘ大藏大臣ニ届出ヘシ

第七條 銀行事業ヲ營ム會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後會社各自ノ取締役又ハ業務執行社員ノ連署シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添テ大藏大臣ニ差出スヘシ

一 總會ノ決議錄

二 合併ニ關スル契約書

三 合併ニ依リ存續スル會社又ハ合併ニ依リ新ニ設立スル會社ノ定款

四 會社各自ノ貸借對照表

會社カ商法第八十一條ノ手續ヲ了シタルトキハ第十二條ノ届出ト同時ニ合併ニ依リ消滅シタル會社ノ認可書ヲ還納スヘシ

第八條 第一條第三條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第九條 銀行カ定款ヲ變更シタルトキハ速ニ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十條 銀行條例第三條及ヒ第四條ノ半箇年ハ毎年一月ヨリ六月迄及ヒ七月ヨリ十二月迄トシ之ヲ銀行ノ事業年度トス

第十一條 銀行條例第三條ノ營業報告ハ附屬雜形ニ準シテ調製シ毎營業年度經過後一箇月以内ニ大藏大臣ニ發送スヘシ但遠隔ノ地ニ支店ヲ有シ又ハ已ムヲ得サル事由アリテ本條ノ期間内ニ報告書ヲ發送スルコト能ハサルトキハ豫メ期日ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ



第十二條 (削除)

第十三條 銀行カ營業ヲ開始スルトキハ其年月日ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第十四條 銀行ノ事業ヲ營ムモノノ營業ヲ廢止スルカ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ解散シタル

トキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ速ニ大藏大臣ニ報告スヘシ

第十五條 銀行ヨリ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルヲ要ス

附則

第十六條 本省令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十六年五月大藏省令第七號銀行條例施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止

ス

(第一號)

第何期營業報告書

何府何市何町銀行名稱

明治何年七月一日ヨリ六月三十日ニ至ル半年間當銀行營業ノ成績ヲ蒐集シ別紙貸借對照表損益計算書及ヒ財産目錄ヲ添テ茲ニ報告ス

資本金

株式會社ハ左ノ如ク記載スヘシ

當銀行現在資本金何萬圓株式何株何圓ニシテ(内拂込高何萬圓拂込未済高何萬圓又ハ内當期間增加高何萬圓又ハ外當期間減少高何萬圓)當期間當銀行帳簿へ記入シタル株式賣買讓與ノ總數ハ何株内何株無代價讓與ノ分差引何株此代價何圓ニシテ其平均代價ハ何圓何錢ニ當レリ

合名又ハ合資會社ハ左ノ如ク記載スヘシ

當銀行現在資本金何萬圓(内當期間增加高何萬圓又ハ外當期間減少高何萬圓)又社員ハ何名ニシテ其姓名出資額ハ册尾ニ附載セリ而シテ當期間何々ノ事故ニ依リ入社何名退社何名其姓名及ヒ各自ノ出資額左ノ如シ

入社ノ分

金何圓

住所

職業

姓名

退社ノ分

金何圓

同

同

同

(各人ノ銀行ハ前文ニ準シ資本金ヲ記載スヘシ)

(株式合資會社ハ株式ニ付テハ株式會社ノ例ニ出資金ニ付テハ合資會社ノ例ニ依リ記載

銀行會社法令大令 第一編 第一章 第一節 第二款 銀行條例施行細則 六七



スヘシ

株主(又ハ社員)總會

(本項ハ通常及ヒ臨時總會ニ於テ決議又ハ認定セシ利益ノ配當、役員ノ選舉、資本金ノ増減支店ノ廢置其他定款ノ變更等ニ關スル件々ノ要領ヲ掲載スヘシ)

處務ノ要件

(本項ハ商業登記簿ニ登記ヲ受ケタル事項、主務省及ヒ地方廳へ願伺届等ノ事項、訴訟其他緊要ノ件々ニ關スル要領ヲ掲載スヘシ)

營業ノ景況

(本項ハ本支店營業ノ盛衰、金融ノ繁閑、貸借金利及ヒ割引歩合ノ高低、各種勘定ノ伸縮其他資金運用等ニ關スル景況ヲ掲載スヘシ)

金銀出納

何支店	本店	營業日數	
		入	出
		金	金
		高	高
		出	金
		金	高

合計
計

(入金高出金高ノ桁ニハ半年間ノ總入金高及ヒ總出金高ヲ記載スヘシ但シ前期ヨリ繰越ノ金高ハ算入セサルモノトス)

諸預リ金

勘定科目	本店		何支店		合計	
	定期預金	當座預金	定期預金	當座預金	定期預金	當期預金
總						
預						
高						
拂						
戻						
高						
現						
預						
高						

(總預高ノ桁ニハ當期間ノ預リ高竝ニ前期ヨリ繰越タル預リ高ヲモ合算シテ掲載スヘシ又



茲ニ掲計シタル外ニ公金其他別種ノ預金アルトキハ右ニ準シ掲載スヘシ  
 諸貸金

勘定科目	本店		何支店		合計	
	貸付金	當座預金 越	貸付金	當座預金 越	貸付金	當座預金 越
總貸高						
返濟高						
現貸高						
口數						

(總貸高ノ桁ニハ當期間ノ貸高竝ニ前期ヨリ繰越シタル貸高ヲモ合算シテ掲載スヘシ) 又口數ノ桁ニハ現貸高ノ口數ヲ掲載スヘシ) 又當期ノ決算ニ於テ若シ該貸金ノ中損失ニ歸シタルモノアルトキハ其金額及ヒ口數ヲ茲ニ掲載スヘシ) 右現貸高ヲ抵當質物ノ種類ニ依リテ區別スレハ左ノ如シ

合計	本店		現貸金高	抵當質物種類
	本店	支店		
				國債證券
				地方債證券
				會社債證券
				諸商社債證券
				信地方建用物品

(現貸高ノ桁ニハ貸付金及ヒ當座預金貸越ノ現貸高ヲ抵當質物ノ種類ニ依リ合算シテ掲載スヘシ) 支店ハ本店ニ準シ掲載スヘシ)

本店	手形種類		所	他	所
	爲替手形	當金			



合計	何支店		約束手形
	約束手形	爲替手形	

(本項ハ當期間ニ割引シタル手形ヲ其支拂地ノ當所(銀行所在地)他所及ヒ其種類ニ依リ區別シテ之ヲ掲載スヘシ)

荷爲替手形

合計	何支店	本店	各地へ向ケタル分		各地ヨリ受ケタル分	
			枚數	金額	枚數	金額

(本項ハ當期間ニ取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ)  
送金爲替手形

合計	何支店		本店		爲替金種類 數枚	各地へ向ケタル分 金額	各地ヨリ受ケタル分 金額
	普通	公金	普通	公金			

(本項ハ當期間ニ取組ミタル金額ヲ掲載スヘシ)「公金ノ桁ニハ國庫及ヒ爲替方其他諸官衙郡市町村等ニ係ル爲替金ヲ掲載スヘシ)

代金取立手形







合計	何支店		本店		價格	總買入高	賣渡又ハ償還高	現在高
	實價	券面	實價	券面				

右諸公債證書ノ利益(又ハ損失)ニ歸シタル金額ハ何圓ナリ

(總買入高ハ當期間買入高竝ニ前期繰越高ヲ合算シテ掲載スヘシ)

(現所有高實價ノ桁ニハ決算當日ニ於ケル現在所有高ノ市價即チ見積代價ヲ掲載スヘシ例

ヘハ現在所有高ノ元買入代價ハ五千貳百圓ナリシニ其市價五千五百五拾圓ニ騰貴シタリトセハ現所有高ノ實價ノ桁ニ五千五百五拾圓ト記入スルモノトス而シテ其市價ニ照シ利益ニ歸シタル高ハ參百五拾圓ナリ)地金銀又ハ地所建物其他各定湖ニ於テ損益ヲ見ルヘ

キ場合ハ總テ此例ニ依ルヘシ)

右現在高ヲ其種類ニ依テ區別スレハ左ノ如シ

種類	本店		何支店		合計	種類	券面	實價
	何市公債	何公債	何市公債	何公債				
整理公債								

地金銀

銀行會社法令大全 第一編 第一章 第一節 第二款 銀行條例施行細則



種類	本店		何支店		合計	
	銀	金	銀	金	銀	金
種類						
總買入高						
賣渡高						
現所有高						

(右地金銀ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載スヘシ)  
 (總買入高ハ前半期繰越高并ニ當期間買入高ヲ合算シテ掲載スヘシ)  
 營業用地所建物及ヒ什器

種類	金額
地所何坪	

本店	什器	支店			合計		
		店	店	店	計	計	計
建物何棟							

(右地所建物及ヒ什器ノ利益又ハ損失ニ歸シタル金額ハ公債證書ノ項ノ例ニ依リ茲ニ記載スヘシ)

抵當質物流込物件

種類	数量	金額







本店貸借對照表

明治何年十二月三十一日

(第二號)

借方	摘要	貸方
	定期預金	13,000.00
	當座預金	37,053.000
	支店送金爲換手形	2,547.000
	他店ヨリ借(幾箇所)	2,600.000
	.....	
	.....	
	.....	
17,500.000	貸付金	
765.500	當座預金貸越	
32,184.500	割引手形	
25,000.000	荷付爲換手形	
5,200.000	公債證書	
18,500.000	他店へ貸(幾箇所)	
4,100.000	支店へ貸	
5,000.000	支店元金	
	.....	
	.....	
50,000.000	資本金	100,000.000
	拂込未済資本金	
	積立金	7,000.000
	當期純益金	1,976.000
	.....	
	.....	
13,000.000	營業用地所建物	
200.000	營業用什器	
	(正貨 8,561.550)	
26,926.000	金銀紙幣並兌換券	17,599.000
	有高換券	
	(切手手形 765.450)	
	.....	
164,176.000	合計	164,176.000

銀行會社法令大 第一編 第一章 第一節 第三款 銀行條例施行細則

何府何市何町何銀行團

二十三

差引  
金何圓  
此配當計算左ノ如シ  
金何圓  
金何圓  
金何圓  
右之通候也

印

前記ノ各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也

株主(又ハ社員)姓名表(削除)

同 監查役 同 同 取締役 何 銀行  
同 同 同 同 同 何 某印  
同 同 同 同 同 何 某印

同 純益金  
積立金  
配當金 何圓ニ付  
後季繰越

二十三



第何期貸借對照表  
明治何年十二月三十一日

(第四號)

借方	摘要	貸方
	定期預金	21.500.000
	當座預金	62.165.500
	支拂送金爲換手形	4.400.000
	他店ヨリ借(幾箇所)	14.708.500
	.....	
	.....	
29.900.000	貸付金	
1.300.000	當座預金貸越	
51.471.000	割引手形	
4.300.000	荷付爲換手形	
7.506.000	公債證書	
29.524.000	他店へ貸(幾箇所)	
	.....	
	.....	
	資本金	100.000.000
50.000.000	拂込未済資本金	
	積立金	7.000.000
	當期純益金	2.464.000
	.....	
	.....	
2.000.000	營業用地所建物	
250.000	營業用什器	
	(正貨 9.866.560)	
35.987.000	金銀(紙幣並兌 23.624.000)	
	有高(換券 2.466.340)	
	.....	
	.....	
212.238.000	合計	212.238.000

何縣府  
何郡市  
何村町

何銀行  
何支店

何地支店貸借對照表  
明治何年十二月三十一日

(第三號)

借方	摘要	貸方
	定期預金	8.500.000
	當座預金	25.112.500
	支拂送金爲換手形	1.858.000
	他店ヨリ借(幾箇所)	12.108.500
	本店ヨリ借	4.100.000
	.....	
	.....	
12.400.000	貸付金	
534.500	當座預金貸越	
19.286.500	割引手形	
1.800.000	荷付爲換手形	
2.306.000	公債證書	
11.024.000	他店へ貸(幾箇所)	
	.....	
	.....	
	支店元金	5.000.000
	當期純益金	488.000
	.....	
	.....	
700.000	營業用地所建物	
50.000	營業用什器	
	(正貨 1.305.110)	
9.061.000	金銀(紙幣並兌 6.025.000)	
	有高(換券 1.730.890)	
	.....	
	.....	
57.162.000	合計	57.162.000

何縣府  
何郡市  
何村町

何銀行  
何支店







(第八號)

何地支店借對照表

資	產	金	額	負	債	金	額
貨座預付金	三、四〇〇〇〇			定期預金	八、五〇〇〇〇		
當座預金	五、四〇〇〇〇			當座預金	三、五〇〇〇〇		
割引手形	一九、二六五〇〇			支拂送金爲換手形	一、八五〇〇〇		
荷付爲換手形	一、八〇〇〇〇			他店借(幾箇所)	三、一〇八五〇〇		
公債證書	二、三〇〇〇〇			本店ヨリ	四、一〇〇〇〇		
他店(貸)證書	二、三〇〇〇〇			支店純益	五、〇〇〇〇〇		
營業用地所建物	七、〇〇〇〇〇			當期純益	四、八〇〇〇〇		
營業用什器	五、〇〇〇〇〇			金			
金銀有什器	九、〇〇〇〇〇			計			
內譯							
正貨	一、五〇五、一〇〇						
紙幣	六、〇三三、〇〇〇						
兌換券	六、〇三三、〇〇〇						
切手手形	七、〇〇〇、〇〇〇						
合計	五、一六二、〇〇〇			合計	五、一六二、〇〇〇		

明治何年十二月三十一日

何府何市何町  
何縣何郡何村  
何銀行  
何支店何

(第九號)

第何期貸借對照表

資	產	金	額	負	債	金	額
貨座預付金	二九、九〇〇〇〇			定期預金	二、五〇〇〇〇		
當座預金	一、三〇〇〇〇			當座預金	六、二一五〇〇		
割引手形	五、四七一〇〇			支拂送金爲換手形	四、四〇〇〇〇		
荷付爲換手形	四、三〇〇〇〇			他店借(幾箇所)	一、七七八五〇〇		
公債證書	七、五五六〇〇			積立本	一〇〇,〇〇〇〇〇		
他店(貸)證書	二九、五五四〇〇			當期純益	七、〇〇〇〇〇		
營業用地所建物	二、〇〇〇〇〇			金	二、四六四〇〇〇		
營業用什器	二、〇〇〇〇〇			計			
金銀有什器	三五、九六七〇〇						
內譯							
正貨	九、八六六、〇〇〇						
紙幣	三、六四〇、〇〇〇						
兌換券	三、六四〇、〇〇〇						
切手手形	四、九六六、三〇〇						
合計	二、三三、三六〇〇〇			合計	二、三三、三六〇〇〇		

明治何年十二月三十一日

何府何市何町  
何縣何郡何村  
何銀行

銀行會社法令大全 第一編 第一章 第一節 第二款 銀行條例施行細則 二十九



(第十號)

損益計算書

三十

		利息	手續料	割引料	公債利息	公債買賣益	前期繰越	合計		
利	益	九三〇〇〇	八四〇〇〇	一、五二六五〇	一八五〇〇〇	五九〇〇〇	五〇〇〇	四、二七五〇〇	給	料
損	失	五五〇〇〇	三五八五〇	七六〇〇〇	純益金	積立金	配當金 (拂込資本高百圓 ニ付四圓ノ割)	後期繰越	料	費
金	額	四、二七五〇〇	二、〇〇〇〇〇	一四〇〇〇	四、二七五〇〇	二、〇〇〇〇〇	一四〇〇〇	四、二七五〇〇	金	額

明治何年六月三十日

何府何市何町

何縣何郡何村

(第十一號)削除

第二節 雜則

第一 銀行條例等ヲ臺灣ニ施行スルノ件

勅令二百五號(明治三十一年九月)

明治二十三年法律第七十二號銀行條例同年法律第七十三號貯蓄銀行條例明治二十九年法律第八十五號銀行合併法ヲ臺灣ニ施行ス

第一 銀行合併法廢止ノ件

法律第六號(明治三十三年一月)

銀行合併法ハ之ヲ廢止ス

第二 銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル件

法律第五十二號(明治三十二年三月)

銀行ニ關スル法律ニ於テ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第四 日本ニ於テ銀行事業ヲ營ミタル外國會社ノ件

銀行會社法令大全 第一編 第一章 第二節 雜則

三十一



大藏省第二十號(明治三十二年六月)

新條約實施前ニ日本ニ於テ本店又ハ支店ヲ設立シ銀行事業ヲ營ミタル外國會社又ハ外國人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セントスルモノハ明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則第一條第二條又ハ第三條ノ規定ニ準シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五 外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル件

法律第四十七號(明治三十八年三月)

外國ニ於テ銀行業ヲ營ムモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

第二章 特種銀行法規

第一節 貯蓄銀行條例及施行細則

第一款貯蓄銀行條例

貯蓄銀行條例(明治二十三年八月法律第七十三號同二十八年法律第十七號ニテ改正)

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス

銀行ニ於テ新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ定期預リ若クハ當座預リトシテ引受クルトキハ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金參萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 貯蓄銀行取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了エ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

但擔保金額カ資本金ノ半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社ノ債券又ハ株券等ヲ用ヰルコトヲ得

第五條 前條ノ金額ハ每半ケ年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム

第六條 預ケ人ハ第四條供託證券ニ就キ優先權ヲ有ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認



可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若クハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

### 第二款 貯蓄銀行條例施行細則

貯蓄銀行條例施行細則(明治二十八年三月大藏省令第一號 同年五月大藏省令第二號ヲ以テ改)

第一條 貯蓄銀行條例第四條ノ利付國債證券、地方債證券、商業手形、會社、債券又ハ株券ハ明治二十六年大藏省令第二十一號供託物取扱規程第二條ノ手續ニ依リ之ヲ本店所在地ノ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第二條 諸債券ノ擔保價格ハ每半箇年末日ノ時價ニ依テ之ヲ定ムヘシ

第三條 第一條ニ依リ證券供託ノ手續キヲ了シタルトキハ供託所受領證ノ寫ヲ添付シ每半箇年末日ヨリ三十日以内ニ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ届出ツヘシ

臨時ニ供託ヲ爲シタル場合ニ於テハ其都度直ニ前項ニ依リ届出ヲ爲スヘシ

第四條 既ニ供託シタル證券ノ全部又ハ一部ノ返戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ返戻ヲ求めントスル證券ノ種類、記號、番號、券面ノ金額、枚數及ヒ擔保金額ヲ記載シテ地方長官ニ出願シ其承認ノ證憑ヲ提出シ供託物取扱規程第十條ノ手續ニ依リ供託所ニ請求スヘシ

地方長官ハ前項ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ直ニ書類ノ寫ヲ添付シ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第五條 大藏大臣ハ會社ノ債券又ハ株券等ニシテ貯蓄預金ノ擔保ニ供スヘカラサルモノト認ムルトキハ其供託ヲ制止スルコトアルヘシ

第六條 供託諸證券ニハ其銀行ノ所有ニ屬スルコトヲ證明スヘキ證書ヲ添付スヘシ

第七條 貯蓄銀行ノ營業報告書ハ附屬雜形ニ準シ調製スヘシ

第八條 本規則ニ規定セサルモノハ總テ銀行條例施行規則ニ依ル

(雜形)

○貯蓄銀行營業報告書

貯蓄銀行營業報告ハ左ニ示セル各項ノ外總テ銀行營業報告中株式會社ノ例ニ準シ調製スヘシ

一貯蓄預金ハ左ノ雜形ニ依リ掲載スヘシ

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第一節 第二款 貯蓄銀行條例施行細則



貯蓄預金

合計	何支店	本店	職業ニ依リ區別スレハ左ノ如シ			
			前期繰越高	當座預高	當期拂戻高	現預高

右預リ高ヲ預入ノ職業ニ依リ區別スレハ左ノ如シ

合計	何支店	本店	職業ニ依リ區別スレハ左ノ如シ			
			農	商	工	雜
			人員金額	人員金額	人員金額	人員金額

又右現預リ高ヲ金額ノ大小ニ依リ區別スレハ左ノ如シ

合計	何支店	本店	金額ノ大小ニ依リ區別スレハ左ノ如シ			
			百圓以上	五十圓以上百圓未満	十圓以上五十圓未満	十圓未満
			人員金額	人員金額	人員金額	人員金額

右貯蓄預金利子ハ年何分何厘ナリ

右現預金高四分ノ一即チ金何圓ニ對スル諸證券ヲ貯蓄預金拂戻保證トシテ何地供託所ニ預ケ入レタリ其種類金額左ノ如シ

種類	枚數	券面金額	擔保金額
何公債證書			
何市公債證書			
爲替手形			
何會社債券			



何會社株券			
合計			

(諸證券ハ其價格當期末日ノ預金總高ノ四分ノ一以上ニシテ實際供託ヲ爲シタル分ヲ掲載スヘシ)

第三款 雜則

第一 貯蓄銀行供託金計算方並營業科目ニ關スル件

大藏省訓令第十二號(明治廿八年三月)

今般法律第十七號ヲ以テ改正相成候貯蓄銀行條例第四條ニ依リ供託スヘキ金額ハ貯蓄銀行ニ於テ何等ノ名稱ヲ用ユルモ其銀行ノ預金總高ニ基キ計算スル儀ト心得ヘシ  
從前認可ヲ經タル貯蓄銀行ノ定款ニ營業科目ヲ記載セルモノハ法律ノ改正アルモ更ニ定款改正ノ認可ヲ經ルニアラサレハ其營業科目外ノ事業ヲ營ム能ハサル儀ト心得ヘシ

第二 貯蓄銀行供託金計算說明ニ關スル件

大藏省訓令第二十一號(明治廿八年五月)

本年<sup>三月</sup>大藏省訓令第十二號ヲ以テ貯蓄銀行ニ於テ供託スヘキ金額ニ關シ及訓令候處右金額複利ノ方法ヲ以テスル預金總高ニ基キ計算スル儀ニ有之此旨更ニ訓令ス

第二節 日本銀行

第一款 日本銀行條例

日本銀行條例(明治十五年六月第三十二號布告 同二十三年法律第六十一號改正)

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締結スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ヘシ又「大藏卿」ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得



第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ壹株貳百圓トス但株主總會決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スル事ヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續キハ定款ヲ以テ定ムルモノトス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明ニシ

資本金入金額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本金入金額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積

立金ト爲ス可シ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬并諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定

貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ

「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ

關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲナス事

第二 日本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲナス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第二節 第一款 日本銀行條例

四十一



ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入レ又ハ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉ス理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ招集ス總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集ス總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルハ臨時株主總會ヲ招集セサルヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委任スルノ外人ヲ以テ代理トナスコヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ起ユルコヲ得ス

第二十一條 大藏卿ハ特ニ管理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上全般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ「大藏卿」ニ報告スヘシ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戾スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ケ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

### 第二款 雜則

#### 第一 日本銀行納稅ニ關スル件

#### 法律第五十六號

(明治三十二年三月)

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第二節 第二款 雜則



日本銀行ハ兌換銀行券條例第二條第二項ニ該當セル保證ニ據リ發行スル兌換券ノ每一箇月ノ平均發行高ニ對シテ其ノ發行稅トシテ一箇年千分ノ十二半ノ割合ヲ以テ政府ヘ納稅スヘシ但シ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ政府又ハ其ノ他ヘ貸付ケタル兌換券ニ對シテハ其ノ納稅義務ヲ免除ス

本法納稅ノ義務ハ日本銀行カ既ニ負擔シ及將來ニ於テ負擔スヘキ他ノ義務ト關係ナキモノトス

納稅期限ハ一箇年ヲ兩度ニ區分シ前半季分ヲ八月三十一日後半期分ヲ翌年二月二十八日限リ納ムルモノトス

### 第二 日本銀行課稅額算出ノ件

#### 大藏省令第九號(明治三十二年三月)

本年法律第五十六號ニ依リ發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ毎日ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其以內ノ利息又ハ無利息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其月ノ日數ヲ以テ除シタルモノトス  
稅額ハ一箇月毎ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ稅額トス

日本銀行ハ左記株式ニ準シ毎月平均發行額表ヲ調製シ翌月十五日限リ之ヲ所轄稅務管理局ニ報告スヘシ

(様式ハ之ヲ略ス)

### 第三節 橫濱正金銀行條例

#### 橫濱正金銀行條例(明治二十年七月勅令第二十九號 同二十二年勅令第十號ニテ改正)

第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止ルモノトス

第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總



會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 外國ノ爲換及荷爲換

第二 内國ノ爲換及荷爲換

第三 貸付

第四 諸預金及保護預

第五 爲換手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フ

コトヲ得

第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘ

シ

第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許

サス

第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クル

コトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償

ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若シクハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受ク

ルハ此限ニアラス

第十三條 第十一條第二項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ントキハ必

ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具

申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ常

ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ



定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ付キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當  
リ復選セラルル者モ亦同シ

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要  
ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ横濱正金銀行頭取ヲ兼ネシメ又ハ横濱正金銀  
行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但職權ハ頭取事故アル  
トキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 横濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ

又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 毎半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 毎半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタ  
ル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 横濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生ジ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ  
此條例ニ背戻シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ  
解散ヲ命スルコトヲ得又株主總會ノ決議ニヨリ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ  
爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株  
主出席シ其決議權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 横濱正金銀行ニ於テ條約定款ニ背戻スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險  
ナル所爲ト認ムル事件アリタルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコ  
トヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十四條 横濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 横濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印  
ヲ捺捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スルコトヲ要セス

第二十六條 横濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ



更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ  
準ス

第二十七條 横濱正金銀行ノ頭取々締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五  
十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

#### 第四節 日本勸業銀行法

日本勸業銀行法(明治二十九年四月法律第八十二號  
同三十八年法律第四八號送數次改)

##### 第一章 總則

第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲メ資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會  
社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ  
資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ  
政府ノ認可ヲ經テ存立時期ヲ延長スルコトヲ得

##### 第二章 重役

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監查役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監查ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其任期ヲ五箇年トス但シ  
其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中  
ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但シ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ  
得

監查役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年ト  
ス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

總裁副總裁理事及監查役ハ任命若ハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル  
者ニ限ル



第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 株主總會

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ招集スルコトヲ得

第十一條 監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但シ法定代理人ハ此限ニ在ラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得

第十三條 (削除)

第四章 營業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ノ箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

日本勸業銀行ハ臺灣ニ於テ貸付ヲ爲ス場合ニハ業主權ヲ擔保ニ徵スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中抵當ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付又ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル効果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金



高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ据置年限ハ相手方ノ希望ニ因リ之ヲ定メサル事ヲ得

第二十二條 債務者年賦金、定期償還又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若ハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用補償金ヲ



供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス  
其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ  
於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキ又ハ期限前ノ償還  
要求ニ對シ其ノ拂込ヲ爲サ、ルトキハ日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコト  
ヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組  
織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シ  
テ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ  
引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケントスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財産ノ實  
況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條ノ一 日本勸業銀行ハ農工銀行ノ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ

擔保トシテ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付金ヲ爲スコトヲ得

第三十一條ノ二 日本勸業銀行ハ其ノ業務ニ附帶シテ委託金ヲ受領シ又ハ地金銀若ハ有價證  
券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ前條ノ委託金又ハ營業上ノ餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證  
券地方債證券ヲ買入レ又ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ確實ナル銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

日本勸業銀行ハ前項ニ依ルノ外前條委託金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

### 第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限  
リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高及其ノ引受ケタル農工債券現在高  
ヲ超過スルコトヲ得ス

勸業債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ二十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者  
ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高ニ



應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ償還スル場合ニ於テハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ其ノ方法及金額ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條ノ二 日本勸業銀行ハ第二十三條ニ依リ期限前ノ償還ヲ受ケタル場合ニ於テハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ金額ヲ限度トシ勸業債券ノ買入消却ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第三十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十八條 勸業債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五

箇年ニシテ其要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

### 第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

### 第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコ



トヲ得ス

第四十八條 大藏大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認許ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セントスルトキハ直接ニ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 大藏大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營

業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

### 第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

一 第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但シ第三十七條第一項ニ該當スル



モノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十六條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲サルトキ

七 第四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

附 則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行總裁ニ引渡スヘシ

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監査役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニアラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス  
設立初度ノ理事及監査役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

第五節 農工銀行法及補助法

第一款 農工銀行法

農工銀行法(明治二十九年四月法律第八十三號  
同三十六年法律第十號迄數次改正)

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニ非サレハ其ノ株主トナルコトヲ得

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第五節 第一款 農工銀行法



株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ株主タルノ資格ヲ失フコトナシ

第五條 農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト
- 二 年賦償還貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ限り不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト
- 三 郡市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト
- 四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキ又ハ整理委員ガ規約ノ定ムル處ニヨリ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト
- 五 二十人以上ノ農業者又ハ工業業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タル時ハ其ノ信用

ノ確實ナルモノニ限り五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

第七條ノ一 前條ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的トスルモノニ限ル

- 一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良
- 二 耕作道路ノ築造又ハ改良
- 三 殖林事業
- 四 種苗、肥料其ノ他工業原料ノ購入
- 五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入
- 六 農工業用建物ノ築造又ハ改良
- 七 前各項ノ外農工業ノ改良

第七條ノ二 産業組合ニヨリ設立シタル無限責任ノ信用組合購買組合及生産組合ニハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニヨリ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

第八條 農工銀行ニ於テ不動産抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其舊債ヲ償還スル効果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ



限ル

農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險附ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動産又ハ不動産ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動産ヲ抵當トシテ貸付クル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

前項 償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但シ其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 債務者年賦金定期償還又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其

ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金 全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若クハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動産ノ全部若ハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、場合ニ於テ農工銀行



ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但シ債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニ在ラス  
其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス

第二十條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル都市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ於テ年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過キ之ヲ拂込マサルトキハ農工銀行ハ監督官應ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

監督官應前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ命令シテ延滞金及第十四條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十一條 農工銀行ハ第六條ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ定期預リ金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ前項ニ依ルノ外營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得

農工銀行ハ府縣都市ノ爲メ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ日本勸業銀行ノ貸付ヲ代理シタル場合ニ於テハ日本勸業銀行ニ對シ債務者ノ爲メニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ債權及其ノ擔保タル抵當權ヲ擔保トシテ日本勸業銀行ヨリ年賦償還ノ方法ニ依リ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

### 第三章 農工債券

第二十六條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ五倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ質ト爲シタルモノヲ控除シタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若クハ所有者ノ請求ニヨリ記名ト爲スコトヲ得

農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用セス

第二十七條 農工銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ但シ第二十四條第四項ニ依リ質ト爲シタルモノ、償還高ハ此ノ限リニ



在ラス

第二十八條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十六條ノ制限ニ依ラス抵利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

低利農工債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊農工債券ヲ償還スヘシ

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十三條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

#### 第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

#### 第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第三十六條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限ス



ルコトヲ得

七十二

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セントスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

#### 第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

三 第二十三條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十五條ノ規程ニ反シ此法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十六條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第二十八條第一項ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス

モノハ此限ニ在ラス

六 第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但シ其ノ命令ニ對シテ十四日以内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

#### 附 則

第四十八條 北海道廳長官及府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第五節 第一款 農工銀行法

七十三



第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ  
第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

### 第二款 農工銀行補助法

#### 農工銀行補助法(明治二十九年四月法律第八十四號) (同三十九年法律二十八號第二次改正)

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地鑛泉池沼ヲ除キ有租地段別百町ニ付七十圓以内トス但シ如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ二十箇年ヲ限リ政府ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ二萬五千圓以内沖繩縣ノ農工銀行

ニ五千圓以内ヲ毎年交付ス但シ農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ十五箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

前項ノ期限經過後尙五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ル、モノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但シ第七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ二十箇年經過ノ後府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ得テ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得  
市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ



## 第六節 日本興業銀行法

日本興業銀行法(明治三十三年法律第七十號  
同三十九年法二號逐次改正)

### 第一章 總則

第一條 日本興業銀行ハ株式會社トシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本興業銀行ノ資本金ハ一千七百五十萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本興業銀行ノ株式ノ金額ハ五十圓トス

第四條 日本興業銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

### 第二章 重役

第五條 日本興業銀行ニ總裁副總裁各一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本興業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁關員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本興業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁及副總裁ハ二百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス

理事ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年トス

監査役ハ六十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第八條 總裁副總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限りニアラス

### 第三章 營業

第九條 日本興業銀行ハ左ノ事務ヲ營ムモノトス

第一 國債證券、地方債證券、社債券及株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ應募又ハ引受

第三 預リ金及保護預リ

第四 信託業務

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第六節 日本興業銀行法



第五 手形ノ割引

第六 法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付

前項第五號ノ手形ハ割引依頼人ヨリ國債證券、地方債證券、社債券又ハ株券ヲ擔保ニ提供  
ルモノニ限ル

第十條 日本興業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券、地方債證券及社債券ノ買入ヲ爲  
スコトヲ得

第十一條 日本興業銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ受  
ケ外國ニ於テ營ム銀行業務及ヒ其ノ附帶業務ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

第四章 債券

第十二條 日本興業銀行ハ拂込資本金額ノ十倍ヲ限り債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付  
金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル國債證券地方債證券及社債券現在高ヲ超過スル  
コトヲ得ス

第十二條ノ二 日本興業銀行ハ外國ニ於ケル公益事業ニ對シ資金ノ需要アル場合ニ限り主務  
大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ本法第十二條、第十五條及商法第二百條ノ規定ニ依ラスシテ  
債券ヲ發行スルコトヲ得

前項公益事業ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ  
因リ記名ト爲スコトヲ得

第十四條 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條ノ二 日本興業銀行ニ於テ債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條ノ規定ヲ適用  
セス

第十五條 日本興業銀行ノ債券ノ利子ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其ノ元金ハ發行ノ年ヨリ三  
十箇年以内ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十六條 日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ第十二條ノ  
制限ニ依ラサルコトヲ得

低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當ス  
ル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十七條 日本興業銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ闕損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上  
ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ



第六章 政府ノ監督及補助

第十八條 政府ハ日本興業銀行ノ業務ヲ監督ス

第十九條 日本興業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 日本興業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 日本興業銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 主務大臣ハ日本興業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十三條 日本興業銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十四條 主務大臣ハ特ニ日本興業銀行監理官ヲ置キ日本興業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 日本興業銀行監理官ハ何時ニテモ日本興業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本興業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十六條 日本興業銀行ノ配當金ニシテ每營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給金ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第七章 罰則

第二十七條 日本興業銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁、副總裁及理事ヲ百圓以上、圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 第十一條ノ規定ニ反シ本法ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十二條第十六條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ

第二十八條 日本興業銀行ノ總裁、副總裁及理事第八條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第二十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本興業銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ日本興業銀行



行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本興業銀行總裁ニ引渡スヘシ

法律第二二號(明治三十九年)日本興業銀行法中改正附則(改正本文ハ直チニ前掲條文ニ付テ加除シ此所ニハ只附則ノミヲ掲ク)

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日本興業銀行ハ本法施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 本法施行ノ際ニ於ケル株式十萬箇ヲ二十萬箇トシ其ノ半數ハ拂込済ノモノ、他ノ半數ハ拂込未済ノモノトシ本法施行ノ際ニ於ケル株主ノ持株ニ比例シテ分配スヘシ
- 二 前號ノ拂込未済ノ株式ニ對シテハ遲滞ナク株金額四分ノ一ヲ下ラサル拂込ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ商法中株式會社ニ於ケル資本増加ノ場合ニ關スル規定ヲ準用ス
- 三 株式十五萬箇ヲ増加シ遲滞ナク株金全額ノ拂込ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ商法第二百十七條第二項及第二百一八條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

四 前各號ニ關シ必要ナル登記ハ第二號及第三號ニ付商法第二百十三條ノ規定ニ依リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間ニ之ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ株式ノ引受アリタルコトヲ證スル書面ヲ以テ非訟事件手續法第八十九條第一號及第二號ノ書類ニ代フルコトヲ得

### 第七節 北海道拓殖銀行法

北海道拓殖銀行法(明治三十二年三月法律第七十六號 同三十八年法律五十號ヲ以テ改正)

#### 第一章 總則

第一條 北海道拓殖銀行ハ北海道ノ拓殖事業ニ資本ヲ供給スルヲ目的トス

北海道拓殖銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ北海道札幌ニ置ク

第二條 北海道拓殖銀行ノ資本金ハ三百萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 北海道拓殖銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

#### 第二章 重役

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第七節 北海道拓殖銀行法



第四條 北海道拓殖銀行ニ取締役四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第五條 取締役ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス  
監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第六條 取締役ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス但シ營利ヲ目的トセサル職務ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 營業

第七條 北海道拓殖銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 二 五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル貸付
- 三 北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券債券ヲ質トスル貸付及其ノ社債券ノ應募、引受
- 四 爲替荷爲替及北海道ノ產物ヲ擔保トスル貸付
- 五 預リ金及保護預リ

六 手形ノ割引

拓殖銀行ハ前項第四號ニ依ルノ外仍北海道ノ產物ノ貯藏ヲ主タル目的トスル倉庫内ニ貯藏スル産業上必要ノ貨物ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得

第一項第六號ノ手形ハ割引依頼人ヨリ北海道ノ產物又ハ北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券、債券ヲ擔保ニ供スルモノニ限ル

第一項第三號、第四號、第六號及第二項ノ事業ニ使用スヘキ金額ハ第一項第一號及第二號ニ依ル貸付金總額ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 北海道區町村制ヲ施行セル區町村及其ノ法律ヲ以テ組織セル北海道ノ公共團體ニ對シ北海道拓殖銀行ハ無擔保ニテ年賦若ハ定期償還ノ方法ニヨリ貸付ヲ爲スコトヲ得

二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

産業組合法ニ依リ設立シタル無限責任ノ信用組合、販賣組合、購買組合及生産組合ニハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

第九條 北海道拓殖銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券又ハ社債券ヲ買入ルルコトヲ得  
第九條ノ二 北海道拓殖銀行ハ日本銀行、日本勸業銀行及日本興業銀行ノ代理店トナルコト



ヲ得

第十條 北海道拓殖銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十一條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號及第二號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テハ債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用シタルトキハ償還期限前ト雖其ノ貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第四章 債券

第十二條 北海道拓殖銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ第七條第一號ニ依ル貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ス

商法第百九十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十三條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ其ノ債券ヲ償還スヘシ

第十四條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ニ依ル貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ前條ト同時期ニ抽籤ヲ以テ延滞金額ニ相當スル債券ヲ償還スヘシ

第十五條 北海道拓殖銀行ハ債券借換ノ爲一時第十二條ノ制限ニ依ラス低利ノ債券ヲ發行スルコトヲ得低利ノ債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第五章 準備金

第十六條 北海道拓殖銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第六章 政府ノ監督及補助

第十七條 政府ハ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監督ス

第十八條 北海道拓殖銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 北海道拓殖銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 北海道拓殖銀行ハ第七條第一號ノ貸付金利率ニ付每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ最高歩合ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第二十一條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十二條 北海道拓殖銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報



告書ヲ差出スヘシ

第二十三條 政府ハ北海道拓殖銀行監理官ヲ置キ主務大臣ノ指揮ヲ承ケテ北海道拓殖銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十四條 北海道拓殖銀行監理官ハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ノ金庫券書庫帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ北海道拓殖銀行ニ命ジテ營業ニ關スル諸般ノ景況及決算報告ヲ差出サシムルコトヲ得

北海道拓殖銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ北海道拓殖銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二十六條 前條ニ依リ政府ノ引受ケタル株式ニ對シテハ北海道拓殖銀行ハ其ノ創立初期末日ヨリ十箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

第七章 罰則  
第二十七條 北海道拓殖銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

二 第十二條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ但シ第十五條第一項ニ依レルモノハ此ノ限ニアラス

三 第十三條第十四條及第十五條第二項ノ規定ニ反シ債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

四 本法ニ於テ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

第二十八條 北海道拓殖銀行ノ取締役第六條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 北海道拓殖銀行ノ發行スル債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

附則  
第三十條 主務大臣ハ北海道拓殖銀行設立委員ヲ置キ北海道拓殖銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十一條 設立委員ハ定款ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十二條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ主務大臣ニ提出シ銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ



前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北海道拓殖銀行取締役ニ引渡スヘシ

第三十四條 北海道拓殖銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

### 第八節 臺灣銀行法及補助法

#### 第一款 臺灣銀行法

臺灣銀行法(明治三十年三月法律第三十八號 三十九年法律第三號迄二次改正)

第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス

臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス

第二條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ要地ニ支店代理店ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレ」レスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ支店代理店ヲ必要ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ

ルヘシ

第三條 臺灣銀行ノ存立期間ハ設置免許ノ日ヨリ滿二十箇年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ

政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期限ヲ延長スルコトヲ得

第四條 臺灣銀行ノ資本金ハ五百萬圓以上トス

第五條 臺灣銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第一 爲換手形其ノ他商業手形ノ割引

第二 爲換及荷爲換

第三 平常取引スル諸會社又ハ商人ノ爲メ手形金ノ取立

第四 確實ナル擔保アル貸付

第五 諸預リ金及當座貸越勘定

第六 金銀貨、貴金屬及諸證券ノ保護預リ

第七 地金銀ノ賣買

第八 他銀行ノ業務代理

右ノ外營業ノ都合ニ由リ國債證券、地方債券、勸業債券、農工債券又ハ興業債券ヲ買入ルルコトヲ得



第六條 臺灣銀行ハ此ノ法律ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 政府ハ臺灣銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第八條 臺灣銀行ハ券面金額一圓以上ノ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ銀行券ハ臺灣銀行本店支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ金貨ト引換フルモノトス但シ支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其ノ引換ヲ延期スルコトヲ得

第九條 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ

前項準備ニ依レル外銀行券ヲ發行セムトスルトキハ五百萬圓ヲ限度トシ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得

市場ノ狀況ニ由リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ必要トスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府發行ノ紙幣、證券、兌換銀行券又ハ確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保證トシテ之ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ政府ノ定ムル所ニ依リ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ

第十條 臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ臺灣總督府管轄地方内ニ於テハ政府ノ收納ニ充ルコトヲ得

トヲ得

第十一條 臺灣銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨濟ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動産、不動産ヲ買取ルコトヲ得ス

第十二條 臺灣銀行ニ頭取、副頭取各一人理事二人以上監査役三人以上ヲ置ク

第十三條 頭取、副頭取ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ四箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ任期ヲ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再選スルコトヲ得

理事及監査役ハ選舉ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 頭取、副頭取及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス



第十五條 頭取ハ臺灣銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副頭取ハ頭取事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ頭取缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副頭取及理事ハ頭取ヲ補助シ臺灣銀行ノ業務ヲ分掌ス

監查役ハ臺灣銀行ノ業務ヲ監查ス

第十六條 株主總會ヲ通常臨時ノ二種トス

通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ頭取之ヲ召集ス

臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ頭取之ヲ召集スルコトヲ得

監查役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ召集ヲ

頭取ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ頭取ハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十七條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得但シ

法律上ノ代理人ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム

第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般

ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

臺灣銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ銀行券發行高貸付金額及貸付方法ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背反シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ



第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

- 一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ
- 二 第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキ
- 三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テサルトキ

附則

第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第二十九條 創立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ臺灣銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ

第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ

第三十一條 設立初度ノ理事及監査役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條

第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

法律第三號(明治三十九年)臺灣銀行法中改正附則(改正本文ハ直チニ前掲條文ニ付テハ加除シ茲ニハ只附則ノミヲ掲グ)

本法施行前第八條ニ依リ發行シタル銀行券ハ臺灣銀行本店又ハ支店ニ於テ一圓銀貨ト引換フヘシ但シ臺灣總督ノ定ムル一圓銀貨ノ公納公定相場ニ依リ金貨又ハ本法ニ依リ發行スル銀行券ト引換フルコトヲ得

第九條ニ依ル銀行券ノ發行高ニハ本法施行前發行ノ銀行券ニシテ引換未済ノモノヲ併算ス

第二款 臺灣銀行補助法

臺灣銀行補助法(明治三十二年三月法律第三十五號)

第一條 政府ハ百萬圓ヲ限度トシ臺灣銀行ノ株式ヲ引受クヘシ

第二條 臺灣銀行ハ其ノ創立初期ヨリ五箇年間ハ前條ノ株式ニ對シ配當スヘキ利益金ヲ缺損填補準備金ニ組入ルヘシ

第三條 前條ノ期限内政府ハ其ノ引受ケタル株式ヲ賣却セス

第九節 第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ノ件

銀行會社法令大全 第一編 第二章 第九節 第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ノ件 九十七



株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ニ關スル件(明治三十八年三月勅令第七十三號)

第一條 株式會社第一銀行ノ韓國ニ於ケル業務ハ外務大臣及大藏大臣ノ監督ニ屬ス

第二條 株式會社第一銀行ハ韓國貨幣整理事務、韓國官金取扱及銀行券發行ニ關スル業務ニ付テハ韓國京城ニ設置シタル支店ヲ以テ韓國總支店ト爲シ韓國各支店、出張所及代理店ト總轄セシムヘシ

第三條 株式會社第一銀行ハ支店出張所若ハ代理店ヲ韓國ニ設置シ又ハ之ヲ廢止セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ株式會社第一銀行ニ命シテ韓國ニ支店又ハ出張所ヲ設置セシムルコトヲ得

第四條 株式會社第一銀行ハ韓國ニ於テ營ム業務ノ爲ニ特ニ資本金額ヲ定メテ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 株式會社第一銀行カ韓國各支店及出張所ニ於テ營ムヘキ業務ノ種類及方法ヲ定メテ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 株式會社第一銀行ハ每營業年度韓國各支店及出張所ノ損益勘定ヲ集計シ其ノ總益金ヨリ總損金ヲ差引タル利益金ノ二十分ノ一以上ヲ少クトモ韓國ニ於ケル營業資本金ノ半額ニ達スル迄積立テ特別準備金トシテ京城支店ニ備ヘ置クヘシ

第七條 株式會社第一銀行ハ韓國ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用スヘキ銀行券ヲ發行スルコトヲ得

第八條 株式會社第一銀行ハ韓國ニ於テ發行シタル銀行券ハ韓國各支店及出張所ニ於テ營業時間中何時ニテモ通貨ヲ以テ引換フヘシ但シ京城以外ノ支店及出張所ニ於テハ京城支店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其ノ引換ヲ延期スルコトヲ得

第九條 株式會社第一銀行京城支店ハ韓國ニ於ケル其ノ銀行券發行總高ニ對シ同額ノ金貨金銀地金及日本銀行兌換銀行券ヲ置キ其ノ引換準備ニ充ツヘシ但シ銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

前項準備ニ依ルノ外株式會社第一銀行ハ一千萬圓ヲ限リ國債證券、商業手形其ノ他確實ナル證券ヲ保證トシテ銀行券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ準備價格ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

經濟上ノ景況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ノ特ニ指定スル條件ニ依リ前二項ノ外更ニ銀行券ノ發行ヲ爲スコトヲ得



主務大臣ハ韓國貨幣整理ノ經過又ハ金融ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ銀行券ノ種類及發行高ヲ制限スルコトヲ得

第十條 銀行券ノ様式及種類ニ關シテハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 銀行券ノ所有者ハ韓國ニ於ケル株式會社第一銀行ノ財産ニ付先取特權ヲ有ス

第十二條 株式會社第一銀行カ韓國政府ト契約ヲ締結シ又ハ韓國政府ヨリ特許特權ヲ受ケムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 主務大臣ハ株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ營ム業務ニ關シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其ノ韓國各支店、出張所及代理店ノ金庫、券書庫、帳簿其ノ他ノ文書ヲ検査シ又ハ諸般ノ景況及計算ニ關スル報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ營ム貸付、割引ノ金額及方法又ハ其ノ利子歩合其ノ他爲替料等ニ關シ相當ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ株式會社第一銀行監理官ヲ置ク

監理官ハ主務大臣ノ指揮ヲ承ケ株式會社第一銀行韓國各支店出張所及代理店ノ業務ヲ監視ス

第十六條 株式會社第一銀行監理官ハ何時ニテモ株式會社第一銀行韓國各支店、出張所及代

理店ノ金庫、券書庫、帳簿其ノ他ノ文書ヲ検査シ又ハ諸般ノ景況及計算ニ關スル報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第十七條 株式會社第一銀行ハ銀行券ノ發行額及引換準備ニ關スル平均高表ヲ公告スヘシ公告ノ方法ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 株式會社第一銀行ノ定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條 株式會社第一銀行ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

第二十條 主務大臣ハ株式會社第一銀行カ法令又ハ定款ニ背戾シ若ハ本令ニ基キテ發シタル命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲アリト認ムルトキハ役員ノ更任ヲ命シ、認可ヲ取消シ又ハ韓國ニ於テ營ム業務ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命スルコトヲ得

#### 附則

本令施行前株式會社第一銀行カ韓國ニ於テ發行シタル銀行券ハ本令ニ依リテ發行シタルモノト看做ス



# 第二編 會社

## 第一章 鐵道會社

### 第一節 私設鐵道法及施行規則

#### 第一款 私設鐵道法

##### 私設鐵道法(明治三十三年三月法律第六十四號)

第一條 本令ハ軌道條例其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノヲ除クノ外一般運送ノ用ニ供スル私設鐵道ニ之ヲ適用ス

私設鐵道株式會社カ運送營業ノ爲ニ支線ヲ敷設スルトキハ現ニ一般運送ノ用ニ供セサル場合ト雖本法ヲ適用ス

第二條 私設鐵道株式會社ヲ發起セムトスル者ハ左ノ書類圖面ヲ具シ主務大臣ニ假免許ヲ申請スヘシ

#### 一 起業目論見書

#### 二 假定款

三 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書

四 線路豫測圖及説明書

五 敷設費用ノ概算書

六 運送營業上ノ收支概算書及説明書

起業目論見書ニハ發起人各自署名捺印スルコトヲ要ス

第三條 主務大臣ハ前條書類圖面ノ外審査ニ必要ト認ムル書類圖面ノ呈出ヲ命スルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ假免許ノ申請ヲ審査シ起業ノ大體ニ於テ不都合ナシト認ムルトキハ假免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 假免許ニハ本免許申請ノ期限ヲ附ス

前項期限内ニ本免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ假免許ハ其ノ效ヲ失フ但シ正當ノ事由アリニ延期ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ申請事項ヲ變更セシメ又ハ假免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

假免許ニ附シタル條件ニ違反シタルトキハ假免許ハ其ノ效ヲ失フ



第七條 發起人假免許狀ノ下付ヲ受ケタルトキハ定款ヲ作り起業目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得

定款ハ假定款ニ準シ之ヲ作ルコトヲ要ス

第一項ノ公告ニハ本法ニ依リ假免許狀ヲ受ケタル旨及假免許ノ年月日ト各株式申込人ニ假免許狀並定款ヲ展閱セシムル旨トヲ記載スルコトヲ要ス

第八條 發起人總員ハ少クトモ總株式ノ十分ノ二ヲ引受クルコトヲ要ス

第九條 株式ハ金錢ヲ以テスルノ外之ヲ引受クルコトヲ得ス

株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第十條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキ又ハ創立總會終結シタルトキハ取締役ハ左ノ書類圖面ヲ具シ主務大臣ニ本免許ヲ申請スヘシ

一 定款

二 工事ノ方法書

三 線路實測圖

四 工費豫算書

前項ノ申請ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 起業目論見書ノ謄本

二 假免許狀ノ謄本

三 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定書ノ謄本

四 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込證ノ謄本、發起人、取締役、監査役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第十一條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請ハ定款ノ變更ト同一ノ方法ニ依リ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 創立總會ニ於テ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ假免許狀ヲ返納スヘシ

第十三條 主務大臣ハ第十條ノ書類圖面ヲ審査シ妥當ト認ムルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

本免許ニハ工事竣功ノ期限ヲ附ス工事竣功ノ期限ハ工區ヲ分チテ之ヲ附スルコトヲ得  
公益上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ本免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得



前項ノ規定ハ許可又ハ認可ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 會社ノ設立ノ登記ニハ商法ニ規定スル事項ノ外本免許ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

設立ノ登記ノ期間ハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 本法及商法ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 本免許ヲ受ケタル後六箇月内ニ設立ノ登記ヲ爲ササルトキハ免許ハ其ノ效ヲ失フ

第十七條 會社ハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ取締役會議又ハ株

主總會ニ臨監セシムルコトヲ得

第十九條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ會計及財産ノ實況

ヲ検査セシムルコトヲ得

検査官吏ハ會社ノ金庫、財産現在高、帳簿及總テノ書類ヲ検査シ取締役其ノ他ノ役員又ハ使

用人ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 主務大臣ハ會社ノ會計ニ關スル準則ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 定款變更ノ決議ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效ヲ生セス

定款ハ本免許ニ附セラレタル條件ニ違反スルコトヲ得ス

第二十二條 定款變更ニ因リ登記事項ニ變更ヲ生シ登記ヲ爲ストキハ定款變更認可ノ年月日

ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

第二十三條 會社ハ株金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ

充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第二十四條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第二十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ

目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二十六條 會社ハ株主總會ノ決議ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ

營業ノ管理委託ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ定款變更ト同一ノ方法ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

營業ノ管理委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ其ノ責ニ任ス

第二十七條 會社ノ取締役其ノ他ノ役員又ハ使用人ハ監督官廳ノ呼出ニ應シ説明ヲ爲スノ義

務ヲ負フ



第二十八條 會社ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クコトヲ要ス

鐵道臺帳ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 會社カ社債ヲ募集セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

社債募集ノ公告ニハ商法ニ規定スル事項ノ外其ノ認可ノ年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第三十條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ鐵道及之ニ關スル物件ヲ抵當トシテ債償ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ負債ハ定款變更ト同一方法ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 前二條ノ債務ノ額ヲ合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十二條 會社ハ每營業年度中ニ支拂フヘキ社債及負債ノ元利金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 鐵道及之ニ屬スル物件ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十四條 鐵道ニ屬スル物件ノ貸渡又ハ讓渡ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス但主務大臣ニ於テ之ヲ變更スルノ條件ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

會社合併ノ登記ニハ商法ニ規定スル事項ノ外合併ノ認可ヲ受ケタル年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

第三十六條 工事方法ノ變更及假設ノ工事ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 工費豫算ノ變更ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 鐵道ノ建設、設計等ニ關スル法令ノ制定、變更ニ因リ工事方法ハ變更ヲ受ク

第三十九條 會社ハ設立登記ノ日ヨリ六箇月内ニ鐵道ノ敷設ニ著手シ本免許ニ附シタル期限内ニ之ヲ竣功スヘシ

前項ノ著手期限ハ鐵道延長ノ場合ニ在リテハ其ノ本免許狀下付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲期限内ニ敷設ニ著手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ會社ノ期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得



前項ノ申請ハ天災事變ノ止ミタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期限内ニ敷設ニ著手シ又ハ竣功シ難キトキハ期限  
 經過前ニ延期ヲ申請スヘシ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス  
 法令ノ結果ニ因リ工事方法ニ變更ヲ生シ又ハ主務大臣ノ命令ニ依リ若ハ其ノ認可ヲ受ケ工  
 事方法ヲ變更シタルトキハ更ニ期限ノ指定ヲ申請スルコトヲ得  
 前項ノ申請ハ法令ノ結果ニ因ルモノハ其ノ施行ノ日ヨリ一箇月内ニ、主務大臣ノ命令ニ依  
 ルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ又認可ヲ受クヘキモノハ其ノ認可ノ申請ト  
 同時ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 軌間ハ特許ヲ得タルモノヲ除クノ外三呎六吋トス

第四十一條 左ニ掲クルモノヲ以テ鐵道用地トス

- 一 線路用地
- 二 停車場、信號所及倉庫、貨物庫等ノ建設ニ要スル土地
- 三 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道員ノ舍宅及運輸保線ニ從事スル鐵道員ノ駐在所等  
ノ建設ニ要スル土地
- 四 鐵道ニ要スル車輛、器具ヲ修理製作スル工場及其ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建設ニ

要スル線路ニ沿ヒタル土地

線路用地ノ幅員ハ築堤、切取、架橋等工事ノ必要ニ應シ工事方法書ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條 道路、橋梁、河川、溝渠ニ關スル工事ノ施設ハ所管官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十三條 線路ノ道路ヲ横斷スル場合ニハ橋梁ヲ架設シ又ハ地下道若ハ踏切道ヲ設クヘシ  
其ノ他危険防止ノ爲必要ナル箇所ニハ牆、柵、門戶、堤塘、溝渠ヲ設ケ又ハ番人ヲ配付スル等

充分ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條 主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ工事ヲ監視セシムルコトヲ得

工事カ工事方法書又ハ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令ニ違ヒタルトキハ主務大臣ハ其ノ

改築ヲ命シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四十五條 會社ハ主務大臣ニ申請シ其ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ  
得ス

第四十六條 運輸開始ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ監査役ヲ派遣シ鐵道ノ設備ヲ監査セ

シテ運輸ヲ開始スルニ適當ト認ムルトキハ其ノ許可ヲ與フヘシ若不適當ト認ムルトキハ其  
ノ改良ヲ命シ其ノ竣功ノ後更ニ運輸開始ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第四十七條 前二條ノ規定ハ新設又ハ變更シタル建設物ヲ運輸ノ用ニ供スル場合ニ準用ス



第四十八條 主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ鐵道ノ設備又ハ運輸保線ノ方法ヲ監査セシメ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ危險ナリト認ムルトキハ其ノ施設ヲ終ル迄運輸又ハ停用ヲ使止スルコトヲ得

第四十九條 第四十四條第二項、第四十八條ノ規定ニ依リ改築又ハ必要ナル施設ヲ命セラレタルトキハ會社ハ之ヲ終リタル後主務大臣ニ申請シテ監査ヲ受クヘシ

第五十條 監査員ハ監査上必要ト認ムルトキハ取締役其ノ他會社ノ役員又ハ使用人ニ説明ヲ求メ及書類圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第五十一條 主務大臣ハ鐵道ノ設備ヲ運輸ノ必要ニ適セサルモノト認ムルトキハ之ニ適スヘキ設備ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 主務大臣ハ公衆ノ安全ノ爲官設鐵道ニ實施スル事物ヲ會社ニ命シテ施設セシメ其ノ他官設鐵道ニ實施スル規則ヲ私設鐵道ニ適用スルコトヲ得

第五十三條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ會社ノ鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ敷設シ又ハ會社ノ鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、溝渠若ハ運河ヲ造設スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ會社ニ命シ接續、橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第五十四條 前條ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

第五十五條 農工商業者カ其ノ產物、商品運送ノ爲敷設スル鐵道ヲ會社ノ鐵道ニ接續セシムルコトヲ求メタルトキハ會社ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

第五十六條 會社ハ運輸ニ關スル規定ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第五十七條 會社ハ旅客及荷物ノ運賃ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ運賃ノ變更ヲ命スルコトヲ得  
運賃増加ノ公告ニハ其ノ認可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ得



第五十八條 下等旅客運賃額ハ線路ノ距離一哩ニ付金二錢ノ割合ヲ超過スルコト得ス但シ二哩未滿ノ哩數ニ對シテハ其ノ一人ノ運賃額ヲ金四錢迄ニ定ムルコトヲ得  
本法 規定ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ又ハ哩數ニ應シ運賃額ヲ定ムルトキ生スル厘位ノ金額ハ之ヲ錢位ニ切上クルコトヲ得

第五十九條 會社ハ運賃ノ割引ニ付テハ豫メ一定ノ準則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ  
準則ニ依ラサル運賃ノ割引ハ各場合ニ付認可ヲ受クヘシ

第六十條 主務大臣ハ運賃ノ算法、荷物ノ等級、運賃表ノ様式及公告ノ方法等ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十一條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ鐵道運送ニ對シ何等ノ名義ヲ問ハス運賃以外ノ料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十二條 會社ハ列車ノ發著時間及度數ヲ定メ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ列車ノ種類、發著ノ時間及度數ヲ定メ其ノ施行ヲ會社ニ命スルコトヲ得

第六十三條 主務大臣ハ會社ニ他ノ鐵道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

第六十四條 二箇以上ノ私設鐵道カ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ設備ノ變更、交互運輸ノ手續、運賃ノ割合其ノ他費用ノ負擔ニ付會社間ニ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

官設鐵道ト私設鐵道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ定ム

第六十五條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ事故ノ届出ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ事故ノ審査ヲ行ハシムルコトヲ得

事故審査ノ爲必要ト認ムルトキハ會社ニ命シ現狀ヲ存置セシムルコトヲ得

監査員ハ取締役其ノ他ノ役員使用人及關係人ヲ呼出、訊問シ其ノ他事故ノ審査ニ必要ナル

審理手續ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 會社ハ營業年度毎ニ營業報告書ヲ調製シ定時總會後一週間内ニ主務大臣ニ差出スヘシ

第六十七條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ差出スヘシ



第六十八條 鐵道事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ヨリ發スル乘車證ヲ携帯スルモノハ無料ニテ乘車セシムヘシ

第六十九條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍人、軍屬及警察官吏又ハ軍馬、銃砲、彈藥、糧食、被服、陣具、工銃、兵器具、天幕等ニシテ公用タルコトヲ證スル通券アルモノハ半額ヲ以テ輸送スヘシ

第七十條 囚徒及監守官吏ハ半額ヲ以テ乘車セシムヘシ

第七十一條 會社ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時、戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スルノ義務ヲ負フ

第七十二條 政府ハ本免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後鐵道及附屬物件ヲ買上クルノ權ヲ保有ス

合併其ノ他ノ方法ニ依リ會社カ他會社ノ鐵道ヲ引受ケタルトキハ其ノ鐵道ニ對スル前項ノ期限ハ舊會社ニ本免許狀ヲ下付シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十三條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上クルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シテ買上價格ヲ定ム

前項ノ價格カ會社ニ於テ前五箇年間ニ株主ニ支拂ヒタル純益金ノ配當平均額ノ二十倍ノ金

額ヲ超ユルトキハ該金額ヲ以テ買上價格ト爲スヘシ

第七十四條 鐵道及附屬物件ノ狀態不完全ナルトキハ其ノ補修ニ要スル費額ヲ前條ノ金額ヨリ控除シタルモノヲ以テ買上價格ト爲スヘシ

前項補修ニ要スル費額ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ政府之ヲ定ム  
鑑定人ノ選定ニ關ズル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 前三條ノ規定ハ法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ノ效力ヲ妨ケス

第七十六條 會社カ第三十九條ノ期限内ニ鐵道ノ敷設ニ著手セス又ハ之ヲ竣功セサルトキハ免許ハ其ノ效ヲ失フ

第七十七條 會社カ第四十九條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若ハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十八條第二項ノ停止ノ命令ニ違反シタルトキハ其ノ違反ノ行爲ニ因リ得タル收入金ヲ沒收ス收入金ト區別シ難キ他ノ收入アルトキハ併セテ之ヲ沒收ス

第七十八條 會社カ法令ノ規定又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ依リ命セラレタル施設ヲ爲ササルトキハ政府ニ於テ之ヲ施行シ會社ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムルコトヲ得  
第七十九條 第七十七條ノ沒收金及第七十八條ノ費用ハ監督官廳ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ



依リ之ヲ徵收ス但シ其ノ先取特權ハ公課ニ次キ之ヲ行フ

第八十條 會社カ法令ノ規定又ハ免許、許可若ハ認可ヲ附シタル條件ニ違反シ又ハ法令ニ基キ發スル命令ヲ遵守セス其ノ他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 官設鐵道又ハ他ノ會社ヲシテ會社ノ計算ヲ以テ運輸ヲ爲サシムルコト
- 三 免許ノ一部又ハ全部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラレルコトヲ得ス

第八十一條 免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ付シ買受人ヲシテ竣功セシムルコトヲ得

買受人ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス但シ主務大臣ハ更ニ著手又ハ竣功ノ期限ヲ指定スルコトヲ得

二回ノ公賣ヲ行フモ買受人ナキトキハ鐵道及ヒ附屬物件ヲ個々ノ物件トシテ之ヲ處分セシム

公賣ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 鐵道延長免許ノ失效又ハ取消ニ因リ前條ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テ鐵道ノ連絡上必要アルトキハ本線ノ免許ノ一部又ハ全部ヲ取消シ併セテ其ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ付スルコトヲ得

第八十三條 會社ハ免許ノ全部失效又ハ全部取消ニ因リテ解散ス其ノ本免許ノ申請ヲ却下セラレタルトキ亦同シ

第八十四條 假免許ヲ受ケスシテ會社設立ノ行為ヲ爲シタル者又ハ免許ヲ受ケスシテ工事ニ著手シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 事故審査ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ現狀存置ノ命令ニ違反シ又ハ呼出、訊問ニ應セス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第四十五條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若ハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十四條第二項第四十八條第二項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シタルトキハ取締役ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第十九條第二項第二十七條第五十條ノ場合ニ於テ呼出ニ應セス又ハ説明ヲ拒ミ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第八十八條 左ノ場合ニ於テハ發起人、取締役ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス



- 一 本法ニ定メタル登記事項ノ登記ヲ怠リタルトキ
- 二 第七條第二十九條第二項第五十七條第三項ノ公告中ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 三 鐵道臺帳ノ調製備置ヲ怠リ之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 本法ニ定メタル營業報告、統計書、事故其ノ他ノ届出及法令ニ基キテ監督官廳ノ命シタル報告届出ノ呈出ヲ怠リ又ハ故意ニ不正ノ報告届出ヲ爲シタルトキ
- 五 法令ノ規定若ハ法令ニ基キテ發シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタルトキ
- 第八十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
  - 一 本法ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニ關シ之ヲ受ケスシテ施行シタルトキ
  - 二 第二十五條ノ規定ニ違反シ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
  - 三 第三十二條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ
  - 四 本法ニ定メタル主務大臣ノ裁定ヲ遵守セサルトキ
- 第九十條 過料ノ徵收ニ關シテハ非訟事件手續法ヲ適用ス

補則

- 第九十一條 一個人又ハ會社ニ於テ個人ノ専用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九十二條 第十六條ニ定メタル期間ハ舊商法ノ規定ニ從ヒ會社ノ設立ヲ爲ス場合ニハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年トス
- 第九十三條 第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受ケタル株式ニ付テハ之ヲ適用セス
- 第九十四條 第三十一條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル債務ニ付テハ之ヲ適用セス
- 第九十五條 第三十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設定シタル質權ノ效力ヲ妨ケス
- 第九十六條 第七十三條第二項第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ免許ヲ受ケタル鐵道ニ付テハ會社ト協議ヲ經タル上ニ非サレハ之ヲ適用セス
- 第九十七條 私設鐵道株式會社ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及其ノ附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス
- 第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（三三年八月勅三三〇號ヲ以テ本條ノ期日ヲ明治三十三年十月一日ト指定シタリ）



私設鐵道條例及明治二十八年法律第四號ハ之ヲ廢止ス

## 第二款 私設鐵道法施行規則

私設鐵道法施行規則(明治三十三年八月湖信省令第廿七號  
同三十五年同省令第十三號條中改正)

第一條 私設鐵道假免許ノ申請書ハ發起人之ニ連署シ本店ヲ設置セムトスル地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ  
起業カ他ノ地方管内ニ係ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製スヘシ

第三條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 商號及本店設置地
- 三 線路ノ起點及終點並其ノ經過スヘキ地名
- 四 鐵道ノ種類及軌間
- 五 資本ノ總額

六 株式總數及一株ノ金額

七 會社存立時期ヲ定メタルトキハ其ノ時期

八 發起人ノ氏名住所

九 發起人ノ引受クヘキ株式ノ總數並各發起人ノ引受株數

前項ノ規定ハ鐵道延長ノ起業目論見書ニ之ヲ準用ス但シ建設資金ノ出資方法ヲ記載スヘシ

第四條 假免狀ヲ受ケタル後起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受クヘシ但シ發起人ノ死亡、氏名、住所ノ變更ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ發起人ノ連署ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

第五條 假定款ニハ商法ノ規定ニ依リ定款ニ記載スヘキ事項ノ外線路ノ起點終點及其ノ經過地ノ地名ヲ記載スヘシ

第六條 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書ニハ鐵道敷設ヲ必要トスル地方ノ狀況及鐵道敷設ニ因リ從來ノ交通機關ニ比シ運輸上ニ於テ公衆ノ受クヘキ利益等ヲ詳細ニ記載シ第一號及第一號様式ニ據リ旅客表及貨物表ヲ添附スヘシ

第七條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

銀行會社法令大全 第二編 第一章 第一節 第二款 私設鐵道施行規則



一 豫測平面圖

縮尺ハ一時三十鎖トシ線路ノ中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ其ノ經過スル地名及地勢ヲ明記シ停車場ノ位置、名稱及曲線半徑並交角ヲ示シ距離ハ半哩毎ニ記入スヘシ

二 豫測縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一時百五十呎トシ中心線地面ノ高低(黑色)及施工基面ノ高低(赤色)ヲ半哩毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置、名稱ヲ記入スヘシ

市街地ニ係ル線路ノ部分ハ別ニ長一時三鎖高一吋三十呎ノ縮尺ヲ以テ表ハセル平面圖及縱斷面圖ヲ添附スヘシ

第八條 線路豫測圖ノ説明書ニハ線路經過地ノ線勢ヲ詳記シ市街、村落、社寺、名勝、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣等ノ重ナルモノ及要塞地トノ關係ヲ明ニスヘシ

説明書ニハ縮尺二十萬分ノ一以上ノ地圖ヲ添へ既成鐵道若ハ官設豫定線又ハ本免許ヲ受ケタル私設鐵道トノ關係ヲ明示スヘシ

第九條 敷設費用ノ概算書ハ第三號様式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ哩數ヲ掲クヘシ

第十條 運送營業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額及内譯ヲ示シ且資本ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

線路延長ノ場合ニ於テハ前項ノ外延長ノ爲線路全般ニ及ホスヘキ收入及支出ノ概算ヲ記載スヘシ

第十一條 運送營業上ノ收支概算書ノ説明書ニハ旅客貨物交通ノ概況及重要ナル貨物ノ種類ヲ詳説シ第四號様式ニ依リ每一哩ノ建設費、貨物噸數、旅客人數、貨物收入、旅客收入、營業費及各項ノ合計並純益及其ノ資本ニ對スル割合ヲ掲載シタル表ヲ添附スヘシ

第十二條 線路豫測圖及説明書、敷設費用ノ概算書、運送營業上ノ收支概算書及説明書ニハ調査主任者之ニ署名捺印スヘシ

第十三條 假免許失効ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ假免許狀ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ハ創立總會ニ於テ會社設立ノ廢止ヲ議決シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本免許申請期限延期ノ申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ

第十五條 本免許ノ申請書ハ總取締役之ニ連署シ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出



スヘシ

百二十六

地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ  
起業カ本店所在地外ノ地方管内ニ係ルトキハ會社ハ其ノ關係部分ニ對スル書類圖面ノ謄本  
ヲ調製シテ之ヲ關係地方長官ニ差出スヘシ

關係地方長官前項ノ書類圖面ヲ受取リタルトキハ各意見書ヲ進達スヘシ

第十六條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 單線又ハ複線等ノ區別
- 二 軌間及軌道ノ間隔
- 三 建築定規及車輛定規
- 四 曲線ノ最小半徑及反向曲線間ノ最短直線
- 五 線路ノ最急勾配及縱弧線ノ最小半徑
- 六 施工基面ノ幅築堤及切取斜面ノ勾配、排水渠ノ寸法及用地ノ幅
- 七 橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ臺脚及基礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質構造、寸法及所定最大活重並  
桁各部ノ最大應力及之ニ伴フ撓度
- 八 隧道ノ各種地質ニ應スル施工断面、坑門、排水渠及待避所ノ構造並各待避所間ノ距離

九 軌條及附屬品ノ材質、形狀及重量、枕木ノ材質、寸法及敷列間隔、道床ノ種類及厚、轉轍  
器及轍叉ノ構造並曲線ニ於ケル軌間ノ擴張度及外方軌條ノ高度

十 停車場ニ於ケル諸建物、乗降場、貨物積卸場、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、貯水  
器、石炭臺等ノ位置及構造、側線ノ配置、轍叉ノ交角、用地ノ境界並停車場哩程

十一 機關車ノ輛數、形狀、構造、寸法、重量及汽壓、客車貨車其ノ他車輛ノ輛數、形狀、寸法、  
容積、重量、機關車及客貨車其ノ他車輛ノ車臺及車輪ノ構造聯結具及緩衝器ノ裝置寸法等  
十二 國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉シ又ハ之ト隣接スル箇所ノ  
防備

十三 其ノ他鐵道建設規程若ハ特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ工事方法

電氣鐵道ニ在リテハ發電所、變壓所及配電所内機械器具ノ裝置法、原動機ノ種類、箇數及  
電氣馬力數、發電機ノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」、電壓變壓器、回轉變壓器ヲ含  
ムノ種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」、電壓及其ノ配置法、電車ニ裝置スル電動機ノ  
種類、箇數及電氣馬力數又ハ「ワット」、電壓、電車内機械器具ノ裝置法、電氣方式、配電法、  
電氣鐵道方式單線式(電氣鐵道ニ在リテハ軌鐵ノ接續法ヲモ)並氣線路ノ種類及構造法、  
保安裝置法ヲ明細ニ記入スルコトヲ要ス



第一項中第一號第二號第四號及第五號ヲ除クノ外各號ニハ設計圖面ノ添附ヲ要ス但シ停車場圖ハ縮尺一吋一鎖トス

第十七條 本免許申請ノ際橋梁及機關車ノ設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ橋梁ニ在リテハ適宜ノ縮尺ヲ以テ河川橫斷面圖ニ平水位及最高洪水水位ヲ示シ且橋臺、橋脚及橋桁ノ位置ヲ記入シタルモノ又機關車ニ在リテハ縮尺一吋八呎ヲ以テ表ハセル略圖ニ豫メ確定シ得ヘキ寸法、重量等ヲ記載シタルモノヲ呈出シ橋桁又ハ機關車製造著手前ニ詳細ナル設計ヲ定メ更ニ認可ヲ受クヘシ

第十八條 線路實測圖ハ左ノ諸圖トス

一 實測平面圖

縮尺一吋三十鎖トシ線路ノ左右各十鎖以内ノ地勢ヲ明ニシ其ノ地附近ノ市街、村落、社寺名勝、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣、要塞地等ヲ示シ府縣、郡市、町村ノ境界及磁針方位ヲ記スヘシ線路中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ半哩毎ニ記シ曲線ノ起終點、半徑及交角、停車場、聯絡所、信號所ノ名稱及哩程、隧道及橋梁ノ名稱並位置ヲ示スヘシ若シ他ノ鐵道線路ト交叉スルカ或ハ之ニ接近若ハ連絡スル所アルトキハ該線路ノ前後各一哩間中心線ヲ記入スヘシ

重要ナル建造物ニ接近シ又ハ之ヲ取除クヘキ箇所、重要ナル河川ヲ附替フヘキ箇所、重要道路又ハ軌道ヲ橫斷シ若ハ之ヲ附替フヘキ箇所並他ノ鐵道ト交叉シ又ハ之ニ接近若ハ連絡スル箇所ハ一吋三鎖ノ縮尺ヲ以テ其ノ局部ノ地形ヲ附記シ且設計ノ概要ヲ示スヘシ市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺一吋三鎖ノ平面圖ヲ添附スヘシ

電氣鐵道ニ在リテハ別ニ縮尺一吋三鎖ヲ以テ表ハセル全線ノ平面圖ヲ添附シ發電所、變壓所、配電所、電氣線路、電柱、埋線及埋線試險口ノ位置、埋線ノ深、電氣線路ノ經過地名及近傍ノ町村名、電柱ノ番號、道路ノ幅、電柱ノ道路へ出幅及其ノ最近地ノ番地、他人ニ屬スル電燈線、電力線其ノ他電氣鐵道用電線ト交叉又ハ接近スル箇所、電氣線路ヨリ凡ソ一町以内ノ區域ニ在ル電信線、電話線其ノ他電氣信號線等ノ位置並歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スル場合ニハ軌道ヨリ凡ソ二町以内ノ區域ニ在ル地下埋設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體及發電ノ一極ヲ接地スル點ノ位置等明瞭ナル凡例ヲ掲ケ記入スルコトヲ要ス

二 實測縱斷面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一吋百五十呎トシ中心線地面ノ高低(黑色)施工基面ノ高低(赤色)築堤ノ高(綠色)及切取ノ深(赤色)ヲ十鎖毎ニ記シ隧道及橋梁(溝橋ヲ含ム)ノ長、桁ノ種類、及箇數、停車場、連絡所、信號所ノ名稱、哩程及兩端區域國道其ノ他重要ナ



ル道路踏切ノ位置並線路ノ勾配ヲ詳記シ且欄外ニ直線及曲線ノ圖表ヲ示スヘシ  
 國道其ノ他重要ナル道路、軌道又ハ他ノ鐵道線路ト交叉スル箇所ハ適宜ノ縮尺ヲ以テ其  
 ノ附近ニ於ケル高ノ關係ヲ示シ且設計ノ概要ヲ附記スヘシ他ノ鐵道ニ接近シ又ハ之ニ連  
 絡スル場所ハ別ニ縮尺長一時三十呎ヲ以テ表ハセル前後各一哩間兩線對比ノ  
 縱斷面圖ヲ添附スヘシ  
 市街地ニ係ル線路ノ部分ニ付テハ別ニ縮尺長一時三十呎ノ縱斷面圖ヲ添附ス  
 ヘシ

三 實測橫斷面圖

縮尺適宜トシ縱斷面圖ノミニテ地形ヲ示スニ不充分ナル箇所ニ限り之カ添附ヲ要ス

四 實測河川圖

內務省直轄河川其ノ他重要ナル河川ヲ橫斷スル箇所ニ限り調製シ平面圖ハ縮尺一時三鎖  
 縱斷面圖ハ縮尺長一時三鎖高一吋三十呎橫斷面圖ハ縮尺適宜トシ鐵道線路ノ上下流各半  
 哩間ニ於ケル地形、堤塘、河床ノ形狀及其ノ地質平水位及最高洪水水位ヲ示シ且橋臺、橋脚  
 及橋桁ノ位置ヲ記入スヘシ  
 實測面圖ニハ第五號及第六號樣式ニ依リ曲線表及勾配表ヲ添附スヘシ

圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ縱橫各一呎ヲ以テ最小限トス

第十九條 工費豫算書ハ第七號樣式ニ依リ其ノ總額及內譯各項目毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ  
 ・哩數ヲ掲クヘシ

工費豫算書ニハ第八號樣式ニ依リ營業資金、工費豫算並會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費及發  
 起人カ受クヘキ報酬アルトキハ其ノ額ヲ合記シタル表ヲ添附スヘシ

第二十條 工費豫算總額ノ増減又ハ各線若ハ各區ニ對スル工費豫算ノ分合ヲ爲サムトスルト  
 キハ理由書及明細表ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 會社ハ每事業年度末ニ於ケル工費ノ豫算決算ノ差引對照表ヲ調製シテ定時總會  
 後一週間内ニ届出ツヘシ

第二十二條 工事方法變更認可ノ申請書ニハ理由書、工事方法書及圖面並新舊工費對照表ヲ  
 添附スヘシ但シ停車場ニ關スル圖面ハ新舊設計ノ對照ヲ明示スルコトヲ要ス

第二十三條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル左ノ變更ハ前條ノ規定ニ準シ書類及圖  
 面ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ

- 一 踏切道及道路、河川附替工事ノ伸縮増減
- 二 橋梁(溝橋ヲ含ム)及隧道ノ伸縮増減



- 三 停車場ニ於テ乗降場、常置信號機、跨線橋及地下道、増設並其ノ他ノ建造物ノ増減及本線路ノ關係ヲ有セサル側線ノ伸縮、増減
  - 四 車輛ノ増加
  - 五 車輛ノ改造但車輛ノ用方ヲ變更スルモノハ此限ニアラス
- 第二十四條 左ノ各號ニ該當スルモノハ理由書及新舊對照圖並新舊工費對照表ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ
- 一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以内ニ在ルトキ
  - 二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ並之ヲ變更シテ二十鎖ヨリ短縮セシメサルトキ
  - 三 施工基面高低ノ變更カ實測縱斷面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以内ニ在ルトキ
  - 四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ並之ヲ變更シテ百分ノ一ヨリ急ナラシメサルトキ
- 停車場内線路ノ勾配、内務省直轄河川及其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合ニ

- 於テハ前項ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 前二項ノ外線路ノ變更ハ第一項ニ掲タル書類圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ
- 第二項中著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合及前項線路ノ變更ノ場合ニ於テハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 停車場、聯絡所、信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ變更シタルトキハ之ヲ届出ツヘシ
- 第二十五條 假設工事ノ認可申請書ハ理由書、圖面、工事方法書及工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ差出スヘシ
- 假設工事ハ豫メ其ノ使用期限ヲ定ムルコトヲ要ス
- 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル假設工事ノ變更ニシテ第二十三條第一號乃至第三號及第二十四條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル場合ニ於テハ第二十二條ニ掲クル書類圖面等ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ届出ツヘシ
- 第二十六條 左ノ假設工事ヲ施行スルトキハ理由書及圖面ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ但シ
- 一 第一號ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ届出ツル外即日電信ヲ以テ報告スヘシ
  - 二 天災事變ニ際シ一時ノ用ニ供スル假線路及假建造物
  - 三 停車場内ニ於テ側線其ノ他建造物ノ改築工事ヲ施スニ當リ設クル假線路及假建造物



第二十七條 第二十二條乃至第二十六條ノ圖面及工事方法書ニ付テハ第十六條及第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 工事方法書及圖面、線路實測圖及工費豫算書其ノ他附屬表ニハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第二十九條 私設鐵道法第十條第二項第三號ニ掲ケタル決定書ノ謄本ハ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テ差出スヘシ

第三十條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ

- 一 資本ノ總額
- 二 株式ノ總數
- 三 株主ノ總數
- 四 議決權ノ總數
- 五 出席株主ノ總數
- 六 出席株主ノ有スル株式ノ總數

七 出席株主ノ有スル議決權ノ總數

前項ノ規定ハ本規則ノ規定ニ依リ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ差出ス場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 私設鐵道法及商法ノ規定ニ依リ爲シタル登記ノ届出ハ登記ノ日ヨリ一週間内ニ其ノ登記謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

第三十二條 本免許失效ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ免許狀ヲ返納スヘシ

第三十三條 會社ハ本免許ヲ受ケタルトキハ一箇月内ニ主任技術者ヲ選任スヘシ  
主任技術者ヲ置キタルトキハ一週間内ニ其ノ履歷書及技術修業ノ證明書類ヲ添附シテ届出ツヘシ更任アリタルトキ亦同シ

技術ニ關スル書類圖面ニシテ監督官廳ニ呈出スルモノニハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ

第三十四條 主任技術者ノ缺位ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ更任者ヲ選任シ前條第二項ノ規定ニ依リ届出ツヘシ

第三十五條 定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

第三十六條 増加資本ニ對スル新株ノ募集ヲ了ハリタルトキハ株式申込證ノ謄本、取締役監查役及検査役ヨリ株主總會ニ爲シタル報告ノ要領書ヲ添附シテ届出ツヘシ



第三十七條 資本減少ニ係ル定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ債權者カ期限内ニ異議ヲ述ヘサリシ旨並異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類ヲ添付スヘシ

第三十八條 他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ詳記シ社名、株數、取得ノ方法及費途ヲ記載シ質權ニ在リテハ尙ホ期間、元金額、利率、債務者ノ氏名等ヲ記載シ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添付スヘシ

第三十九條 鐵道ノ貸借又ハ營業ノ管理委託ノ認可申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書、貸借又ハ管理ニ關スル契約書謄本等ヲ添付スヘシ

第四十條 社債發行認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 社債發行ヲ要スル事由
- 二 社債ノ總額
- 三 券面ノ金額
- 四 社債ノ利率
- 五 社債募集ノ初期及終期
- 六 社債元利償還ノ方法及期限

前項ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ其ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 前條ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書
- 二 最終ノ貸借對照表
- 三 元利金支拂ノ豫算
- 四 株金總額及拂込額並ニ鐵道及之ニ屬スル物件ノ抵當ノ登記謄本
- 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額
- 六 社債發行ニ關スル條件及規程

前項第六號ノ書類ニ記載ノ事項ヲ變更シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ

第四十二條 社債募集ノ公告ヲ爲シタルトキハ一週間内ニ届出ツヘシ

第四十三條 社債ノ募集ヲ了リタルトキハ募集締切ノ日ヨリ三十日內ニ左ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ

- 一 募集締切ノ年月日
- 二 募集金額
- 三 應募金額



四 募集契約締結ノ最昂、最低價格及會社ノ實收スヘキ金額

無記名式ノ債券ヲ發行シ又ハ記名式ノ債券ヲ無記名式ニ、無記名式ノ債券ヲ記名式ニ變更シタルトキハ其ノ金額、券數及發行又ハ變更ノ年月日ヲ記載シ發行又ハ變更ノ日ヨリ一週間内ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ株券ニ之ヲ準用ス

第四十四條 會社ハ毎年社債ニ關スル左ノ事項ヲ翌年 月末日迄ニ届出ツヘシ

- 一 其ノ年社債拂込高、既往累年拂込總高及未拂込高
- 二 其ノ年社債償還高、既往累年償還總高及未償還高
- 三 利子仕拂高
- 四 債券讓渡讓受人ノ人員及債金高
- 五 其ノ年末現在債權者ノ員數

第四十五條 鐵道及之ニ屬スル物件抵當負債ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

- 一 負債ヲ要スル事由及其ノ金額
- 二 元利償還ノ方法及期限

三 利率

四 抵當物件ノ種類但シ目錄ヲ添附ス

五 契約書謄本

六 債權者ノ氏名、住所

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書及總株金拂込額及社債總額並前ニ爲シタル抵當ノ登記謄本ヲ添附スヘシ

第四十六條 前條ノ外會社ニ於テ借入金ヲ爲シタルトキハ借入ノ日ヨリ一週間内ニ前條第一項第一號乃至第三號及第六號ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ其ノ事項ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十七條 機關車、客車及貨車ノ讓渡又ハ二箇月以上ノ期間ヲ定メ若ハ二箇月以上ニ涉リ之カ貸渡ヲ爲ストキハ認可ヲ受クヘシ但シ連帶運輸ノ場合ニ於テ豫メ使用料ヲ定メタル交互ノ使用ハ此ノ限ニ在ラス

前項認可申請書ニハ契約事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第四十八條 會社合併認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ



一 合併ノ事由

二 合併方法

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

二 債權者カ期間内ニ異議ヲ述ヘサリシ旨並異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタル旨ヲ證スル書類

第四十九條 鐵道敷設ニ著手シタルトキハ一週内ニ届出ツヘシ

第五十條 工事著手及竣功期限ノ伸長延期並期限指定ノ申請書ハ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ進達スヘシ

第五十一條 工事施行中ハ三箇月毎ニ工程報告ヲ差出スヘシ

第五十二條 工事カ竣功シタルトキハ成功圖面並諸表ヲ添附シ届出ツヘシ

前項圖面及諸表ハ別ニ之ヲ定ム

第五十三條 旅客列車(混合列車亦同シ)發著時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ一時旅客列車(混合列車亦同シ)發著時間及度數ノ變更ヲ爲シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第五十五條 通常貨物列車及臨時旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發著時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ届出ツヘシ

第五十六條 第五十三條ノ認可申請書ニハ運轉圖表及列車發著時間表ヲ添附スヘシ

前項ノ列車發著時間表ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 驛名

二 各驛間ノ距離

三 各驛累計距離

四 列車ノ番號及種類

五 發著時刻

六 上下列車ノ區別

前項時間表ニハ聯結客車ノ等級及種類並他ノ鐵道へ連絡スヘキ接續時間ヲ附記スヘシ

第五十七條 列車發著時間及度數變更ノ認可申請書及届書ニハ理由書ヲ添附スヘシ

第五十八條 旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發著時間及度數ノ變更ハ臨時列車ヲ除クノ外其ノ



實施前少クトモ三日間各停車場ニ之ヲ揭示スルコトヲ要ス

第五十九條 他ノ鐵道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ膽本ヲ添附シ實施後一週間内ニ届出ツヘシ

- 一 連帶驛名
- 二 旅客及荷物取扱方
- 三 賃金ノ割賦方
- 四 共同停車場及倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項
- 五 線路及車輛ノ使用料、遲滯料等ニ關スル事項
- 六 運輸上ノ責任負擔方
- 七 運輸開始ノ年月日

第六十條 會社ガ解散シタルトキハ登記簿本ヲ添附シテ届出ツヘシ

清算力結了シタルトキハ清算人ハ其ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ一週間内ニ株主總會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附シテ届出ツヘシ

附則

第六十一條 本規則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十二條 私設鐵道法施行前ニ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受ケタル他ノ會社ノ株式ヲ有スル會社ハ本規則施行ノ日ヨリ二週間内ニ第三十八條ニ掲クル事項及所得若ハ設定ノ年月日ヲ記載シテ届出ツヘシ

第六十三條 私設鐵道法施行前ニ鐵道及之ニ屬スル物件ヲ質權ノ目的トシテ負債ヲ爲シタル會社ハ本規則施行ノ日ヨリ二週間内ニ其ノ物件ノ種類、元金額、利率、期限及債權者ノ氏名並質權設定ノ年月日ヲ記載シテ届出ツヘシ

第六十四條 商法施行法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル事項ハ登記ノ日ヨリ一週間内ニ登記簿本ヲ添附シテ届出ツヘシ  
(表式ハ之ヲ略ス)

第二節 鐵道營業法

鐵道營業法(明治三十三年三月法律第六十五號)

第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ

第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸



規程ノ定ムル所ニ依ル

鐵道運輸規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 運賃ノ増加及運送取扱條件ノ變更ハ關係停車場ニ二週間以上公告シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得ス  
附添人ナキ重病者ノ乗車ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

第五條 火藥其ノ他爆發質危險品ハ鐵道カ其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得

第六條 鐵道ハ左ノ事項ノ具備シタル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得ス

- 一 荷送人カ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルトキ
  - 二 貨物ノ運送ニ付特別ナル責務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メサルトキ
  - 三 運送カ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セサルトキ
  - 四 貨物カ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ
  - 五 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ
- 前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限り之ヲ引受クルノ義務ヲ負フ

第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限り貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ

第九條 貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得

點檢ニ因リ貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラサル場合ニ限り鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之カ爲生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ火藥其ノ他爆發質危險品ヲ成規ニ反シ手荷物中ニ收納シタル疑アル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際其ノ物品ノ種類性質及價格ヲ明告シ且増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ハ損害賠償ノ責ニ任セス但シ鐵道カ増賃金ノ支拂ヲ請求セサルニ因リ荷送人ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ササルトキハ此ノ限ニ在ラス



前項増賃金ノ割合ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 牛馬其ノ他ノ獸類ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際價格ヲ明告セサルトキ又ハ明告スルモ鐵道運輸規程ニヨリ鐵道ノ請求スル増賃金ヲ支拂ハサルトキハ其ノ損害ニ付鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ限り賠償ノ責ニ任ス

前項賠償金額ノ制限ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ損害ヲ生シタル場合ニハ之ヲ適用セス第十三條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失、毀損ニ付テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ限り損害賠償ノ責ニ任ス

第十四條 運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス第十五條 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乗車券ヲ受クルニ非サレハ乗車スルコトヲ得ス

乘車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限り乗車スルコトヲ得第十六條 旅客カ乗車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

乘車後旅行ヲ中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得第十七條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ運送ニ著于シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハ

サルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應シ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乗車券ヲ呈示シ検査ヲ受クヘシ

有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ乗車券ノ検査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ増賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ乗車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス

第二章 鐵道係員

第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 私設鐵道ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 旅客及公衆ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第二十三條 私設鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

會社ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ



懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ會社之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得  
第二十四條 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ二十五圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ醸スノ虞  
アル所爲アリタルトキハ五百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乗込マシメタルトキハ二十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第二十七條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免レシメタ  
ルトキハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十八條 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因  
テ往來ヲ妨害シタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三章 旅客及公衆

第二十九條 運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 有效ノ乗車券ナクシテ乗車シタルトキ
- 二 乗車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乘リタルトキ

三 乗車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

第三十條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ詐偽ノ所爲ヲ爲シ  
タル者ハ三月以下ノ重禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携  
帶シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 列車運轉中乗降シタルトキ
- 二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ
- 三 列車中旅客乗用ニ供セサル箇所ニ乘リタルトキ

第三十四條 制止ヲ肯セスシテ左ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

- 一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ
- 二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄ニ立入りタルトキ

第三十五條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ妄狀ヲ現ハシ其ノ他不良ノ行狀ヲ爲シタル  
者ハ科料ニ處ス



第三十六條 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識揭示ヲ改竄毀棄撤去シ又ハ燈火ヲ滅シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十七條 停車場其ノ他鐵道地内ニ妄ニ立入りタル者ハ科料ニ處ス

第三十八條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 車内停車場其他ノ鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乘車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

一 有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ

二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯

シタルトキ

三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ

四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十三條 前諸條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル犯罪ニシテ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪若ハ違警罪ノ現行犯アリタルトキ被告人カ其ノ住所氏名ヲ分明ニ告知セス又ハ逃亡ノ虞アルトキハ鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ得

附則

第四十四條 本法ハ私設鐵道法ニ依ラサル私設鐵道ニハ之ヲ適用セス

第四十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道略則、鐵道犯罪罰例、明治十六年(七月)第二十三號布告ハ之ヲ廢止ス

第三節 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社

第一款 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル法律

法律第八十七號(明治三十三年)

銀行會社法令大全 第二編 第一章 第三節 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社 百五十二



帝國臣民ニシテ外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營ム爲ニ帝國内ニ於テ設立スル會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

勅令第二百六十六號(明治三十三年九月)

第一條 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運送業ヲ營ム爲帝國内ニ於テ帝國臣民ノ設立スル株式會社ニ關シテハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス

第二條 會社ノ發起人ハ株金第一回拂込前定款、工事方法書、線路實測圖及工費豫算書ヲ具シ遞信大臣ニ會社設立ノ免許ヲ申請スヘシ

前項免許ノ申請ニハ株式申込證ノ謄本及必要ナル書類圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 會社ハ資本總額ヲ數回ニ分ツテ募集スルコトヲ得但シ第一回募集額ハ資本總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第五條 第一回募集ノ資本ニ對スル第一回ノ株金拂込アリタルトキハ發起人ハ創立總會ヲ召集スルコトヲ得

第六條 定款變更ノ決議ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效ヲ生セス

第七條 會社ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ社債ヲ發行スルコトヲ得ス

社債總額ハ拂込株金額ノ十倍ニ至ルコトヲ得但シ其額ハ資本總額ノ五分ノ四ヲ超過スルコトヲ得ス

第八條 會社ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ工費豫算及工事方法ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 會社ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併又ハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 會社カ本令ノ規定又ハ免許若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキハ遞信大臣ハ役員ノ改選ヲ命シ又ハ免許若ハ認可ヲ取消スコトヲ得

會社ハ前項免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十一條 第六條第八條乃至第十條ノ規定ハ外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營ム爲帝國内ニ於テ舊商法ノ規定ニ依リテ設立シタル合資會社ニ之ヲ適用ス

第二款 京釜鐵道株式會社ニ關スル勅令

勅令第二百九十二號(明治三十六年十月)

第一條 京釜鐵道株式會社ニ付テハ本令ニ規定スルモノノ外明治三十三年勅令第三百六十六號ノ定ムル所ニ依ル



第二條 會社ニ總裁一人理事七人以内監查役四人以内ヲ置ク

遞信大臣ハ理事中ヨリ三人以内ノ常務理事ヲ命ス

第三條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

常務理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌シ總裁事故アルトキハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理ス

理事ハ會社ノ重要ナル業務ニ參與ス

監查役ハ會社ノ業務ヲ監查ス

第四條 總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ三箇年トス

理事ハ百株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ三箇年トス

監查役ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ二箇年トス

第五條 總裁及常務理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ遞信大臣之ヲ定ム

第七條 政府ハ京釜鐵道株式會社管理官ヲ置キ會社ノ業務ヲ監視セシム

監理官ハ何時ニテモ事業ノ施設ヲ監查シ會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルヲ得

得

監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

京釜鐵道株式會社現任ノ取締役ハ本令ニ依リ總裁及理事ノ任命セラレタル日ヨリ以テ其ノ任ヲ終リタルモノトス

現在ノ監查役ハ現行定款ニ定メタル任期間在任スルモノトス

第三款 京釜鐵道買收法

京釜鐵道買收法(明治三十九年三月法律第十八號)

第一條 政府ハ本法ノ規定ニ依リ明治三十九年ニ於テ京釜鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收ス



買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス

第二條 政府ハ買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務並收益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス

一 拂込株金ノ六分ニ相當スル金額ヲ二十倍シタル金額

二 京仁線ニ於ケル明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額

前項第二號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第四條 會社ニ於テ填補スヘキ社債發行ノ差損金ハ會社ノ負擔トス

第五條 左ニ掲クル金額ハ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

一 京仁線へ繰替使用シタル金額

二 京仁線ノ債務ニシテ政府へ返還スヘキ金額

前項第二號ノ金額ハ買收ノ日ヲ以テ年五分ノ單利引法ニ依リテ之ヲ算定ス

第六條 會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修ニ要スル金額ハ前條

第一項ノ例ニ依リ買收價格ヨリ之ヲ控除ス

第七條 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキハ政府ハ審査委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

審査委員ノ決定ハ終局トス

審査委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 買收ノ執行ハ審査委員ノ審査中ト雖モ之ヲ停止セス

第九條 會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ二箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財産ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス

第十一條 政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付スヘシ



前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第十二條 政府ハ買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス

第十三條 政府ハ前條ニ依リ發行シタル公債及第二條ニ依リ承繼シタル債務ノ整理ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命付ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前二條ノ公債ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外整理公債條例ヲ適用ス

第十五條 第五條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

#### 第四節 鐵道國有法

##### 鐵道國有法(明治三十九年三月法律第十號)

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニアラス

第二條 政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十八年迄ノ間ニ於テ本法ノ規定ニ依リ左ニ掲クル私

設鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

- 一 北海道炭礦鐵道株式會社
- 一 北海道鐵道株式會社
- 一 日本鐵道株式會社
- 一 岩越鐵道株式會社
- 一 北越鐵道株式會社
- 一 甲武鐵道株式會社
- 一 總武鐵道株式會社
- 一 房總鐵道株式會社
- 一 七尾鐵道株式會社
- 一 關西鐵道株式會社
- 一 參宮鐵道株式會社
- 一 京都鐵道株式會社
- 一 西成鐵道株式會社



- 一 阪鶴鐵道株式會社
- 一 山陽鐵道株式會社
- 一 德島鐵道株式會社
- 一 九州鐵道株式會社

前項ニ掲ケタル各會社ハ他ノ私設鐵道株式會社ト合併シ又ハ他ノ私設鐵道株式會社ノ鐵道ヲ買收スルコトヲ得ス

第三條 前條ニ掲ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス

第四條 政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支出殘額並收益勘定積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 買收價額ハ左ニ掲ケタルモノトス

- 一 會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額
- 二 貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シタル金額但シ借入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

前項第一號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費、賞與金及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第六條 借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限り時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲サス又ハ鐵道建設規程ニ依リ期限内ニ改築若ハ改造ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修、改築又ハ改造ニ要スル金額ハ前項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條 資本勘定ニ屬スル支出ハ借入金ヲ以テシタルモノヲ除クノ外順次ニ建設費及貯藏物品ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

借入金ノ支出ハ前項ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條 會社カ明治三十八年前半期ノ營業年度末ニ於テ運輸開始後六營業年度ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ第五條第一項第一號ノ金額カ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ政府ハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ第五條第一項第一號ノ金額ニ代フ



第九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ政府ハ審査委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

一 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキ

二 前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ

審査委員ノ決定ニ對シ不服アルトキハ會社ハ主務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

審査委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 買收ノ執行ハ審査委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セス

第十一條 會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十二條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ五箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財産ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス

買收後公債證書ノ交付ヲ終ル迄ニ要スル清算人ノ職務ニ關スル會社ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ支辨ス

第十三條 政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付スヘシ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第十四條 政府ハ鐵道買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス

第十五條 政府ハ前條ニ依リ發行シタル公債及第四條ニ依リ承繼シタル債務ノ整理ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前二條ノ公債ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外整理公債條例ヲ適用ス

第十七條 第五條第一項第二號及第六條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

第十八條 買收ヲ受クヘキ會社カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第九條乃至第十六條ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス